



No.17

キーマンインタビュー

孫泰蔵
迫慶一郎

クリエイターインタビュー

松山洋
中川悠介

URCレポート

創造性を生み出す都市環境と経済活動
「老いるアジア」に福岡市はインパクトを与えられるか？
都市・都市化に関する世界の潮流（ハビタット）
期待されるスタートアップの海外展開
2016年 ATA 授賞式 in 銀川

特集

パイオニアスピリット 福岡





Contents

特集 **パイオニアスピリット福岡**

2-3 市長メッセージ

次の時代を見据えたグローバルチャレンジに向けて動き出した福岡市

福岡市長 高島 宗一郎

4-5 キーパーソンインタビュー

画期的な取り組みと人材育成がグローバルスタートアップへ

孫泰蔵

6-7 キーパーソンインタビュー

チャレンジ精神旺盛な福岡人気質を街づくりに!

迫慶一郎

8-9 クリエイターインタビュー

福岡は、ゲーム開発に

松山洋

10-11 クリエイターインタビュー

世界に通用する日本のクリ

中川悠介

12-17 徹底解説

チャレンジシティ フクオ

「生活の実の充実」/「成長



世界でいちばん有利な街だ！！

エイティブを福岡から発信していきたい

力
への都市整備」 / 「次世代への歩み」

18-19 テータでみる福岡
創造性を生み出す都市環境と経済活動

- 20-27 URC レポート
- 「老いるアジア」に福岡市はインパクトを与えられるか？
 - 都市・都市化に関する世界の潮流(ハビタット)
 - 期待されるスタートアップの海外展開
 - 2016年ATA授賞式 in 銀川

28-29 URC インフォメーション

次の時代を見据えた グローバルチャレンジに向けて 動き出した福岡市

福岡市長
高島 宗一郎

新しい価値を創造する スタートアップ

福岡市では、スタートアップ支援を経済政策の大きな柱のひとつに位置づけ、スタートアップを次々と生み出す都市の実現に取り組んでいます。その実現のため、施策を体系的に整理し展開していくことに加えて、市としてスタートアップ支援を経済施策の中心に据える方針を明確に示し、ムーブメントの醸成にも注力しました。

まず、福岡を中心に活躍する起業家とともに平成24年9月に「スタートアップ都市ふくおか」を宣言し、スタートアップを全面的に支援することを「旗」として掲げました。さらに、国内外のITベンチャー起業家が一堂に会するイベント「B Dash Camp」の誘致など、スタートアップのムーブメントを創出してきました。特に、平成26年5月に日本政府から国家戦略特区に指定されて以来、そのムーブメントが加速するとともに、スタートアップカフェを中心とした市内スタートアップのエコシステムが可視化され

てきました。

その結果、平成29年1月末現在で、スタートアップカフェから生まれた企業は90社を超え、さらに福岡市の開業率は21大都市（政令市と東京23区を含めたもの）の中で3年連続ナンバーワンとなりました。スタートアップのすそ野が広がり、「リスクを取ってチャレンジすることは素晴らしい」という価値観が確実に浸透してきていることを、身をもって感じています。

しかしながら、すそ野が広がったことだけで満足しているわけではありません。すそ野を広げてきたのは、そこから高い峰を築くためなのです。ここ福岡市を起点に、世界を変える新しい価値を創造するスタートアップを波状的に輩出するため、生まれてきたスタートアップがグローバルに活躍するよう大きく育てる取組みを進めています。

グローバルにチャレンジするマインドづくり

まず、これまで市内に分散していた3カ所のインキュベート施設と福岡市スタートアップカフェを都心

Global Challenge! STARTUP TEAM FUKUOKA 参加者



部の旧大名小学校に移設し、福岡市の新たなスタートアップ支援の拠点施設「FUKUOKA growth next」として平成29年4月にオープンする予定です。

この施設は、民間事業者が独自のアイデアとノウハウを活かしながら、官民共働で運営し、大手企業との連携やIPO(新規株式公開)等を視野に、スタートアップへの個別の成長支援を行います。また、スタートアップカフェやインキュベーション施設、コワーキングスペース等の機能を集約することで、国籍や世代を超えた様々な利用者の交流や、相互作用によるイノベーションの創出が期待されるほか、福岡市の有望なスタートアップの可視化が進み、国内外からの投資機会を作り出すなど、スタートアップの更なる成長を図ります。

また、成長のためには創業時点からビジネスのグローバル化が必須であり、そのためには、市内スタートアップが海外の優秀な人材と交流する仕組みが必要です。

そこで、平成28年6月から市内で創業する外国人の在留資格申請時の要件を緩和する「スタートアップビザ」や、外国人創業者に住宅・事務所の家賃を補助する「スタートアップ賃料補助」など、外国人が創業しやすい環境づくりに向けた施策を「スタートアップパッケージ」として提供することで、海外の優秀なスタートアップや人材を呼び込み、市内スタートアップとの交流を促進しています。

同時に、海外への敷居を低くし、市内スタートアップの海外進出を促進する取り組みも行っています。まず、フィンランド・ヘルシンキ市(平成28年12月)やエストニア政府機関(平成28年11月)、台北市(平成29年2月)とスタートアップ支援に関する覚書を締結することで、インキュベーション施設への優先入居など、互いの都市が国を越えてスタートアップを支援するグローバルネットワークを構築しました。さらに、スタートアップ先進地であるサンフランシスコや台湾の創業支援施設とスタートアップカフェとの連携により、スタートアップカフェで現地のビジネス情報収集や起業相談などができるようになってい

また、市内の起業家やその候補者などをサンフランシスコ・シリコンバレーに派遣する研修プログラム「Global Challenge! STARTUP TEAM FUKUOKA」を、平成28年11月から平成29年1月の計3回にわたり実施したところ、想定の2倍を超える122名が参加しました。研修後、参加者同士のコミュニティが形成されるなど、福岡市全体にグローバルにチャレンジするマインドが広がってきています。

時代をリードする都市へ

さらに福岡市は、新産業の育成への環境整備に取り組み、時代をリードする都市を目指しています。自動車や家電と、街中にあるセンサーがネットワークにつながるI o T(インターネット・オブ・シングス)の通信環境をつくるとともに、そこに集まる膨大な情報から新たなビジネスのニーズを見つけ、A I(人工知能)で解析・制御し、ものづくり・サービスにおける技術革新を起こして、まちづくりを推進しています。

平成30年度に移転が完了する九州大学箱崎キャンパス跡地(東区)などでは、「FUKUOKA Smart EAST」の取組みを進めており、I C T(情報通信技術)やI o Tの活用など、最先端の技術革新による快適で質の高いライフスタイルと都市空間を創出し、世界に誇れるまちづくりを目指しています。

これからも福岡市は、時代をリードする都市を目指して、新たなチャレンジをしていきたいと思えます。



平成28年7月シンガポールで開催された「世界都市サミット2016」

画期的な

取り組みと人材育成が
グローバルスタートアップへ

Key Person
Interview

国内外のスタートアップ支援、育成に力を注ぐ

Mistletoe株式会社の代表取締役社長兼CEO、孫泰蔵氏。

「スタートアップの活躍が豊かな社会を創る」という孫氏に、

現在の世界のスタートアップの動きや、

グローバルスタートアップシティを目指す

福岡市の課題などについて話を伺った。

Interview

そん たいぞう

孫 泰蔵

(Mistletoe株式会社 代表取締役社長兼CEO)

価値を生み、 世界を変えるスタートアップ

今、世界では起業をする人たちの人口が増えており、イノベーションも起こりやすくなっています。2015年の世界のベンチャーキャピタルによる投資金額は約15兆円とのこと。それにより、何千、何万というスタートアップが生まれ、画期的なプロダクトが次々に誕生しています。しかし、スタートアップは、1,000のうち3つしか成功しないと言われています。うまく行か、そうでないか、意見が真っ二つに割れるものの方が、大抵うまく行くようです。

実は、スタートアップというのは「反直感的」なんです。例えばTwitterやAirbnb[®]は、最初は「そんなの普及するわけがない」、「ありえない」という反応だったそうですが、現在では全世界に利用者がいて、とてつもない価値を生

んでいます。

世の中には、「面白そうだ」と聞くと、わけがわからないものでも「やってみよう!」という変わった人が一定数いるんですね。例えば、5%くらいいるとしましょう、そうすると、世界人口で考えると3.6億人、日本人口で考えると何百万人にもなります。実際に何十万、百万もの数が集まり、インターネットによって、爆発的に広がる。ですから「わけわからない」ものの方が話題になりますし、そこには大きな可能性があります。何が出てくるかわからない。とてつもない妄想狂で、でもそれを実現しようとしている人たちがいる。そして、それらが実現すると世界が大きく変わっていく。そこがスタートアップの魅力の一つです。

世界が変わるときは、短期間で劇的です。1900年のニューヨークの写真を見る機会があったのですが、道には馬車ばかりで、自動車はたった1台でした。ところが、そ

のわずか13年後の同じ場面の写真は、自動車ばかりで馬車の方がたった1台になっていたのです。現代で言えば、iPhoneが登場したのは2007年で、スマートフォンの歴史はまだ10年ほどですが、今ほとんどの人がスマートフォンを持っています。10年前、人々はこんなにスマートフォンが普及している世の中を想像していたでしょうか。

このように、世の中を劇的に変えるスタートアップ企業が日本からもぜひ出てきて欲しい。これからは十分あり得ると思っています。

【注】※Airbnb(エアビーアンドビー)
自宅などを宿泊施設として提供するインターネット上のサービス。世界190超の国と地域で150万以上の物件を紹介。

社会課題の解決に向けた「ソーシャルスタートアップ」

今、「ソーシャルスタートアップ」に取り組む起業家が増えていると感じます。例えばゴミ問題ですが、これを根本から解決するには、膨大なコストや時間を要します。ところが今、斬新なアイデアを持った若き起業家たちが、少ないコストで解決できる方法を次々と打ち出しています。例を紹介すると、一人のオランダ人高校生が、「オーシャンクリーンアップ」という事業を立ち上げました。それは太平洋に漂流する大量のゴミを一掃しようという壮大なプロジェクト。今は、すでに15億円の資金を調達しているのです。

ソーシャルスタートアップは、世代的なものかもしれませんが。現役の大学生が率いる『防災ガール』という団体など、今の若い世代は社会課題への関心が高いと感じています。こうしたスタートアップにより、世の中は劇的に変わっていき、確実に良くなっていくのではないのでしょうか。

私自身も多くのスタートアップを支援しています。現在、力を入れていることのひとつは「防災」です。日本は地震大国で、各地で地震が発生しており、その災害は深刻です。九州でも昨年4月に起きた熊本地震は大きな被害をもたらしました。そこで、被災地の支援や復興に役に立ちたいと考え、熊本県にほど近い福岡市に防災に関する研究開発の拠点「防災テックラボ(仮称)」というプロジェクトを立ち上げました。

もともと防災目的ではなかったのですが、実際に防災や災害対応に活用できる素晴らしいアイデアと技術を

持っているスタートアップが支援先にいくつかあります。例えば、輸血用の血液や支援物資などを運ぶ人工知能搭載のドローンを開発している企業。トイレに取り付けたセンサーで病気の有無を調べる設備を作っている企業。持ち運び可能な水の再利用システムを手掛ける企業など。どれも被災地できっと役に立つことでしょう。今後も防災を切り口に、こうしたソーシャルスタートアップを福岡市にたくさん集めていきたいと思っています。

教育徹底で飛躍する スタートアップシティ福岡

5年前に「スタートアップ都市ふくおか」を標榜した福岡市。スタートアップという言葉も浸透し、ベンチャーキャピタル(投資家)も出てきており、エコシステム(生態系)は少しずつ進んできていると感じます。今後、福岡市が「グローバルスタートアップシティ」になっていくための最大の課題は、人材の教育ではないでしょうか。

アメリカでは、フェイスブックのマーク・ザッカーバーグさんと夫人は、「The Primary School」という学校を立ち上げました。低所得者向けの無料の学校ですが、最先端の教育を入れています。

人材がいなければスタートアップは生まれません。初等教育から高等教育、研究機関まで、行政も民間も可能な限り教育に投資をすべきでしょう。教育を熱心にやろうという人が出てくるか否かで、今後の街の姿が大きく変わってくると思っています。福岡市の取り組みは、行政と民間が一体となってがんばろうという姿勢があり、たいへん画期的です。そんな中で、大きな社会課題を解決する成果を生み出すようなスタートアップ企業が誕生すれば、福岡市は大きくステップアップすることでしょう。

Profile

孫 泰蔵 (そん たいそう)

佐賀県生まれ。東京大学在学中にYahoo! JAPANの立上げに参画。2002年、ガンホー・オンライン・エンターテイメント創業。2013年、スタートアップ企業をサポートするMistletoe株式会社を立ち上げる。現在、同社代表取締役社長兼CEO。



チャレンジ精神旺盛な 福岡人気質を街づくりに！

中国で日本人初の建築家事務所「SAKO建築設計工社」を設立した迫 慶一郎氏。以来、北京と東京を拠点に世界で100を超えるプロジェクトを手掛け、「中国で最も活躍する建築家」の1人と評されている。現在、故郷の福岡にも拠点を構えながら、世界各国で活躍している迫氏が見る福岡市とは――。

Interview

さこ けいいちろう
迫 慶一郎
(建築家)

迫氏が店舗デザインをした埼玉県戸田駅前 T-FRONTにて

実力勝負の北京に 拠点を持つ

私が最初に北京に降り立ったのは、2000年でした。そのときの北京は、伝統的な低層の住宅区と近代的な高層ビルと工場地帯とが混在している状態で、大きな可能性を感じつつも、どのような街に変貌するのかは予想できませんでした。中国という国は、建築の成り立つ仕組みが他の国とはまったく違います。日本では、大規模なタワーマンションや商業ビルなどのデザインを手掛けるのは、ほとんどがマンションディベロッパーの設計部で、建築家が手掛けることはほとんどありません。しかし、中国では、「ここにはランドマークが必要で、革新的なものが必要だ」と思ったら、まず優秀な建築家を探します。しかも、実績や会社の規模ではなく、デザイン力で勝負できるのです。

山本理顕設計工場勤務時にコンペで獲った北京の大規模開発プロジェクト「建外SOHO」の成功が、中国で独立するきっかけとなりました。2004年の北京で建築家事務所を設立して以来、私がすごいスピードで日本では得難いキャリアを積むことができたのは、中国の建設ブームに乗っ

た部分も大きく、時代のうねりが味方したと感じます。

もちろん、どんなに運が良くても、成功するには一定の実力を持っていること、さらにその力を尽くすことが前提です。私は子どもの頃から建築家になりたいと思い、それに対して努力をしてきました。世界のトップレベルの日本の建築家の中で認められるというのは、並大抵ではありませんし、その準備はしてきたつもりです。その準備を、自分に巡ってきたチャンスに対して、全て注ぎ込みました。

新しい価値観を生み出し ムーブメントへつなぐ

北京や東京で仕事をして、改めて故郷の福岡を見てみるとすごく良い街だということに気づきます。街は適度な密度で集積し、人々は街の周辺だけでなく街の真ん中にも住んでいて、ここまでバランスのいい街はないと思います。ビジネス上でもみんながつながっている感覚があって、とても居心地がいい。

そうした住みやすさ、生活やビジネスコストの安さなど

も考えると、福岡はチャレンジしやすい街と言えると思います。北京や東京は家賃が高く、街の中心地ではなかなか起業に踏み切れない部分がありますが、福岡だと中心地でも比較的容易に事務所を借りることができます。また、多くの芸能人も輩出している福岡は、「何かやってやろう!」と思っている人が多いと感じています。福岡人はチャレンジ精神も旺盛なのではないでしょうか。

これからチャレンジしようという人に伝えたいのは、「失敗を恐れるな」ということ。「失敗したから、もう一生立ち直れない」なんて、そこまで大きな失敗はそうそうありません。失敗したら、次またがんばればいいんです。自分自身を振り返ってみると、一つは自分の母国じゃなかったからチャレンジできたのかもしれませんが。「とにかく全力を尽くしてやろう。後のことはそのとき考えよう。失敗したら日本に帰ればいいか」という気持ちもありましたね。そういう風に捉えれば、どんどんチャレンジしていけるのではないのでしょうか。

今後は、都市間競争が激化する時代ですので、新しい価値観が必要となってくるでしょう。東京や海外にどんどん出て行って、何かを掴んで帰ってきて、「ふるさと福岡をもっと良くしよう」という人たちがもっと出てきて欲しいと思っています。

その人たちが福岡の街づくりに参加することで、優位性が保て、さらに評価の高い街にすることができるのではないのでしょうか。彼らが福岡で気づいたことを提言し、共感する人たちが増え、それがムーブメントになっていけば、世界の都市にはない、福岡にしかできないことにチャレンジできるのではないかと考えます。

福岡の魅力を引き出し、 自分たちのアイデンティティを活かして

私が大好きな街で、世界遺産にもなっている中国の麗江という街があります。街の真ん中に水郷があり、木造の家が立ち並ぶ美しい街です。以前訪れたとき、木造建物の2階にあるレストランで食事をしました。向かいの建物にあるレストランもよく見え、そしたらその客の中国人が歌い始めたんです。1曲終わったら、今度は別の客がそれに対抗するように歌い始め、次はこっちのテーブル、今度はあっちのテーブルと歌合戦になり、最後は大合唱になったんです。とても感動的な場面でした。そういうアクティビティが誘発される雰囲気、スケール感を持っている街なんです。



福岡市 どんご保育園



北京パンプス

こういうことが福岡の街ができれば最高です。福岡にはみんなに愛されている「屋台」があります。狭くて人情にあふれるあの距離感、そこにはアクティビティがあります。それがビルの中ではなく、道端にあるわけです。パブリックな場所とプライベートな場所があいまいにつながっている、そこが福岡の魅力の一つです。それらを活かした街づくりができるのではないかと。例えば、屋台と大きな商業施設を滑らかに切れ目なくつなぎ、その全体を一体化して空間デザインできないだろうか、などと、想いが膨らんでいます。

もう一つ考えているのは、「水辺の街」として活性化できないかということ。まずは、福岡の中心地に流れる那珂川周辺で



す。川の周辺にテラスを張り巡らすように作り、オープンな空間を設けるのはどうでしょうか。そうすると、川沿いの雑居ビルも宝のように見えてくるかもしれません。さらには、日本海側にある大都市、福岡の地理を活かした「マリーナレジデンス」。博多湾に直結し、庭先に専用の船着き場がある住宅地を構想しています。海と向き合い、そこに新しい親水的な環境を整えていくことで、福岡の都市としての魅力がさらに高まるのではないのでしょうか。この他にも福岡には掘り起こせるところがたくさんあり、次々とアイデアが浮かんでいきます。

そうした福岡ならではのアイデンティティを大事にした街づくりを目指し、チャレンジ精神旺盛な福岡の人たちとともに、日本中の都市からびっくりされるような独自の街をデザインしていけたらいいなと思っています。

Profile

迫 慶一郎 (さこ けいいちろう)

福岡市出身、建築家。1996年、東京工業大学大学院を終了後、山本理顕設計工場入社。2010年日本人起業家のネットワークである「北京和僑会」を発起。現在、海外20数都市をつなぐ「和僑総会」の会長を勤める。グッドデザイン賞、JCD AWARDなど多くの受賞歴を持つ。





福岡は、
ゲーム開発に
世界でいちばん
有利な街だ!!



・NARUTO-ナルト- 疾風伝 ナルティメットストーム4 ROAD TO BORUTO
 発布日:2017年2月2日発売
 発売元:株式会社バンダイナムコエンターテインメント
 開発元:株式会社サイバーコネクトツー
 ・脚本著者:スコット/集英社・テレビ東京・びえろ
 ・劇場版NARUTO製作委員会 2014
 ・劇場版BORUTO製作委員会 2015
 ・BANDAI NAMCO Entertainment Inc.

まつやま ひろし
松山 洋

(株式会社サイバーコネクトツー 代表取締役)

大きな成長を遂げている福岡のゲーム業界。その企業の一つである「株式会社サイバーコネクトツー」の設立者、代表取締役の松山洋氏。1996年2月に設立した後「.hack」シリーズ、「NARUTO-ナルト- ナルティメット」シリーズ、「ジョジョの奇妙な冒険」シリーズなど多くのゲーム開発を手掛ける。妥協なき男の松山氏に、熱い思いを語っていただきました。

かったんです。世界には「ゼルダの伝説」「スーパーマリオ」「ファイナルファンタジー」などの日本のゲームに感銘を受けてゲームクリエイターになったという人が多く、「日本人的なモノづくり」をしたいと思っている人も大勢いるんですよ。彼らを私は「青い瞳のサムライ」と呼んでいるんですが、世界中のクリエイターが集結するモントリオールで、彼らに闘いの場所を提供したいと考えたわけです。

「サイバーコネクトツー」は、2016年で設立20周年とのこと。秋にはカナダのモントリオールにスタジオを開設されたそうですね。

東京や海外ではなく、あえて福岡に拠点を置いている理由は？

創業当時はわずか10名でスタートしましたが、現在は福岡でおよそ200人、東京スタジオに33人のスタッフがいます。2016年10月に3つ目の拠点として、カナダのモントリオールに開発スタジオを開設しました。

福岡はゲーム開発を行うのに世界でいちばん有利な場所なんです。1つのゲームソフトを作るのに、2年から3年はかかります。長い間、開発をするためには、モノ作りの環境に適し、働いているスタッフにとってストレスが少ない場所が必要です。例えば開発に必要な電気機器などがすぐに手に入らないと困ります。それとクリエイターはい

モントリオールを選んだ理由は、ここ10年間のゲーム産業の成長度。モントリオールの10年前のゲーム開発者人口はわずか1,000人だったのが、現在1万人を超え、この10年でなんと10倍になっているんです。いま世界中からモントリオールに開発者が集まって、世界で大ヒットしているゲームを作っています。「この街を盛り上げよう！」とがんばっているクリエイターもたくさんいるんですよ。

ただ、モントリオールには純粋な日本企業が一社もな



ンブットが大事なので、映画館や本屋さんが潤沢にあって、アニメも多く放送している街でなければいけない。福岡であれば、その条件が揃っています。さらに通勤時間が5分から10分と短いスタッフも多いので、時間をフルに活用できる。しかも福岡は海も山も近いので、休日にも存分に楽しめます。福岡ってほんとに奇跡の街なんです。こんなバランスのいい街は世界中探してもなかなかありません。実際、そこに気づきはじめて企業が続々と福岡にやってきていますよ。

仕事以外の活動も精力的にやっておられるとお聞きしました。主にどんなことを？

主には「GFF※」と「スーパーゲームスクール」でしょうか。

「GFF」は、今から12年前、福岡で活躍する老舗ゲーム会社のレベルファイブとガンバリオン、当社の3社で「福岡をゲームのハリウッドに」を合言葉に結成した団体です。今では福岡市、福岡県、九州大学も巻き込み、12社の加盟企業とともに活動しています。2016年10月には「CEDEC+KYUSHU 2016（主催：CEDEC+KYUSHU 2016実行委員会、共催：一般社団法人コンピュータエンターテインメント協会）」というカンファレンスを、九州・福岡で活躍する現役のクリエイターに向けて開催しました。おかげさまで日本全国から1,400名を越える方々が集まり、大盛況でしたよ。

「スーパーゲームスクール」は、福岡のエンタメ企業数社と組んで開講している塾です。年齢、性別、国籍、実績、何も関係なく、「やる気だけは誰にも負けない」という塾生が集まっています。毎回、本当に必死でないとクリアできないレベルの課題を出しています。2016年度で2年目になりますが、1年目は受講生19名の中で2名、業界に就職することができました。

そうした成果もあって、福岡市もこの10年でゲーム開発者人口が随分増え、多くのゲーム会社も誕生し、開発者人口は現在1,500人超。「ゲームクリエイターになるためには東京に行くしかない」と思っている人がまだまだいるようですが、ここ福岡でもなれるんです。「妖怪ウォッチ」を手掛けるレベルファイブも福岡に本社がありますし、それに実際に我々も福岡を拠点に第一線でやっているんですから。「福岡は今、ゲーム業界がすごい」ということ、福岡で活躍できるんだということをもっと多くの人に知って欲しい。そして、子どもの頃からゲームクリエイターを夢見てきた若い世代にどんどん入ってきてもらい、我々と一緒



にエンタメ産業を盛り上げていてもらいたいですね。

※GAME FACTORY'S FRIENDSHIPの略。九州・福岡を、ゲーム産業、デジタルコンテンツ産業の世界的開発拠点とすることを目的として設立された。

ゲーム、アニメ、マンガなどのクリエイターを目指す人にメッセージを！

マンガ、アニメ、映画、ゲームなどのエンタメ産業で、10年以上続くことは稀です。一瞬だけ漫画家になってプロになって雑誌に載ったことがあるという人はたくさんいますが、実績を作って、同じ仕事をし続けられる人はほんの一握り。ずっと闘い続けて、成功し続けるからプロ。失敗したら終わりです。こんなことなら最初から教えてほしかったという人が多いので、最初に言います。やるんだったら、全てを賭けないと無理です。少ないリスクで、上手くいけばいいなという人は、そもそも向いていません。覚悟をもってやって欲しい。最初からすべてを賭けないと無理だと思います。そもそも好きじゃないとやれない業界です。

私は少年誌、青年誌はほとんど定期購読し、漫画の単行本は毎月100冊読み、アニメ作品は1週間で40タイトルほど見て、ゲームソフトは年間100本プレイし、映画は映画館で年間100本観ています。「なかなか時間がなくて観られないんですよねえ」という人はエンタメ業界には向いてないですね。

要は、やる気とそれが好きかどうか。起業するにしても、就職するにしても、今やっていること、やろうとしていることに、すべてを賭けられるかどうかではないでしょうか。

PROFILE

松山 洋（まつやまひろし）

福岡県生まれ。九州産業大学出身。ゲーム開発会社、株式会社サイバーコネクトツアの代表取締役社長。同社の開発作は「NARUTO-ナルト-疾風伝 ナルティメットストーム4（発売元：バンダイナムコエンターテインメント）」等がある。2016年、設立20周年を機に著書『熱狂する現場の作り方』（星海社新書）を刊行。



世界に通用する 日本のクリエイティブを 福岡から発信していきたい

なかがわ ゆうすけ
中川 悠介 (アソビシステム株式会社 代表取締役社長)

今ではすっかり定着している「青文字系」「KAWAii」という言葉。その生みの親が、アソビシステム株式会社の代表取締役社長を務める中川悠介氏。今や世界に股に活躍する「きゃりーぱみゅぱみゅ」を育てたことでも知られる。福岡市の大名に事務所を構えた中川氏が、福岡にかける想いとは――。

“カルチャーをめざし、根付かせる”

アソビシステムの原点は、イベントです。私はもともと「人が集まること」が好きでした。例えば、音楽とかDJとかファッションとか、何かやりたいわけではなかったのですが、テーマやジャンルを区切らずに、「人が集まって楽しめる空間」を作りたいと思っていました。大学時代からイベントを開いていたのですが、その中で、「美容師ナイト」(※1)と「ファイブスター」(※2)というイベントが大きな支持を得て、それが今の「アソビシステム」につながっています。

アソビシステムでは原宿カルチャーを発信しています。原宿の魅力は“おもちゃ箱”のようなところだと思っています。なんでもアリで、ゆるくて、変化する。とても自由です。そして、確実に「原宿ファン」がいました。その

ファンに向けてウェブサイトやSNSで情報を発信していると思ったのです。

そうした中で、私が大事にしていることは、「ブーム」ではなく、「カルチャー」を創ること。ブームは去って行きますが、カルチャーは根付いていきます。「原宿」も「青文字系」も、最初はブームのように見えたと思いますが、しっかりとカルチャーとして根付いていきました。当社所属のきゃりーぱみゅぱみゅも、一つのカルチャーです。

ブームにはなったけど、消えてしまうというケースも多くあります。自分たちが発信するものを、単に消費させてしまっておしまい、というものにはしたくありません。だから、最初からカルチャーを目指し、常に根付かせるという思いで向かいたいと思っています。

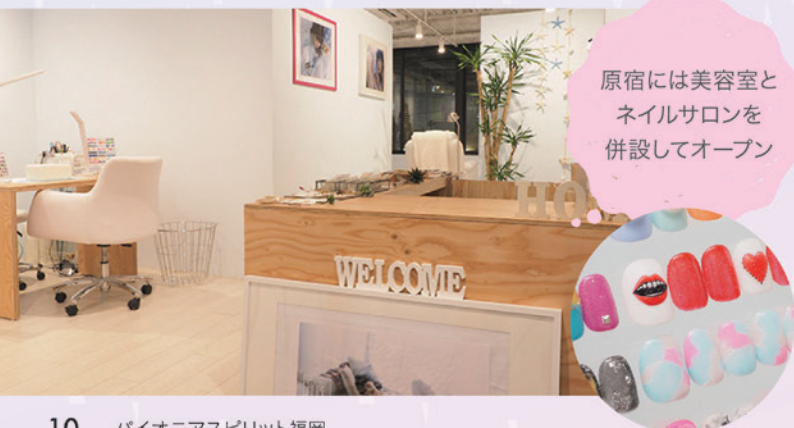
※1 美容師ナイト 2002年から2006年にかけて開催した原宿の有名美容師が出演するイベント。

※2 ファイブスター 専門学生・大学生などが中心となりファッション・ヘアメイクショーを発表するショーイベント。2002年に初開催。

“新しい形のポップカルチャーを世界に向けて”

最初にきゃりーぱみゅぱみゅが面白いと思ったのは、ブログとSNSでした。攻撃的でインパクトがあったのですが、実際にはとても真面目な女の子で、地に足がついている感じがありました。真面目だからこそ魅力も人気も続いているのではないのでしょうか。ただ瞬間的に面白いのではなく、面白さを続けられるのだと思います。

私は「きゃりーの生みの親」みたいに言われるのですが、自分が仕掛けたという意識はないんです。みんなでガムシャラにやっていたら、人気が出たという感じです。最初のワールドツアーのときは本当に手探りで、私たち



原宿には美容室とネイルサロンを併設してオープン



自身、まったく海外の経験がなかったので、いろんな壁にぶつかりました。きゅーりー自身もプレッシャーだったと思います。おかげさまで昨年、3回目のワールドツアーを成功させることができています。

きゅーりーのワールドツアーを経験して実感したことは、「日本のクリエイティブはレベルが高い」ということです。そして、特有の面白さもあります。私は「原宿カルチャーは世界に行ける」と思っていました。日本人の中には、アメリカやヨーロッパに憧れを持っている人も多いと思いますが、私にはそれがありません。逆に、日本のクリエイティビティの高さを評価しています。海外に出ることがスゴイことではなく、「海外に通用しなければ意味がない」とも思っています。

もちろん、原宿でも海外に憧れている若い子たちはいませんが、実は、その原宿の若い子たちに海外のファンがついています。「Zipper」や「KERA」などの青文字系雑誌は海外でもよく読まれていて、世界から日本への関心は間違いなく高い。そこで私は、日本のカルチャーをもっと海外に出していきたく思うようになりました。

そこで誕生したのが、「もしもしにっぽんプロジェクト」です。このプロジェクトで、ファッション・音楽・アニメ・フードなどの日本のポップカルチャーを世界に向けて発信しています。イベント、テレビ番組、ウェブサイト、観光案内所などの複数のメディアと連携し、イベントを数多く開催することで、日本国内外問わず、新しい形で日本のポップカルチャーを発信していきたいですね。そして、日本に興味を持った海外ファンが来日した時に、旅行、観光、趣味、仕事などの受け皿となる様々なサービスを提供していきたいと思っています。



“「イノベーション」しながら、さらに楽しい街へ”

福岡には、まだまだチャンスがあるんじゃないか、そしてやりたいことが出来るような街でバランスが取れていると思います。2015年「アソビシステム福岡支社」を立ち上げました。福岡では、ファッションカルチャーなどの福岡のカルチャーを見つけ、根付かせていきたいと考えています。そこでまずは、福岡のサブカルチャーを伝えるメディアを広げて、そこに集まってくる人々と新しいビジネスを作りたいと思っています。



3階が福岡支社、1階にはカーボンコーヒー



福岡の魅力はたくさんあります。食べ物が美味しい。終電を気にせずお酒が飲める。海や山がすぐ近くにある。アジアのゲートウェイである。空港と都心部が近いのもいい。私は台湾で仕事をする事が多いので、福岡国際空港をよく使うのですが、とても移動がスムーズです。市民がお祭り好きなこと、若い子が多いこともビジネス面では魅力です。それに美容師が多く、アーティストが多い、才能ある人が多いですね。そこをもっとPRするのも必要だと思います。若い起業家たちにとっても、福岡は「やりたいことができる街」と気付くと、より多くの人が集まってきますよね。

ただ、福岡のイベントで一つ感じるのは、福岡のオリジナリティにこだわってしまう。しかし、そうしたこだわりは、若い子にとっては意味がないことが多いんです。それに「新しい物を作る」という発想が強すぎて、「イノベーション」しながら広げて、繋げようという意識があまりないことです。MUSIC CITY 天神、ファッションウィーク福岡、アジアフォーカス・福岡国際映画祭などのイベントとメディアなど多種多様な業界が繋がりがあって、福岡がどう成長していくか、次にどんな福岡を目指すのか、楽しみにしています。

PROFILE

中川 悠介 (なかがわ ゆうすけ)

東京都生まれ。アソビシステム株式会社・代表取締役社長。原宿を拠点にした「HARAJUKU CULTURE」を発信し、「青文字系カルチャー」を生み出す。「HARAJUKU KAWAII!!」や「もしもしにっぽん」の運営をはじめ、所属アーティスト・きゅーりーばみゅばみゅのワールドツアーなどを成功させている。



EVENT INFORMATION

デジタルアートで江戸の秘密を暴く

世界で最も美しいと称される浮世絵をデジタルアート化

「スーパー浮世絵『江戸の秘密』展」
2017年1月28日(土)～5月21日(日)
日本橋茅場町特設会場
大人(高校生以上):1,600円
子ども(3歳以上～中学生以下):1,000円

企画制作:アソビシステム制作会社
エグゼクティブ・プロデューサー:中川悠介



CHALLENGE CITY FUKUOKA

だからチャレンジしやすい。 大きな可能性を秘めた街、福岡。

福岡市はなぜ「チャレンジしやすい街」と言われるのか。それは福岡市がこれまで築いてきた都市づくりを基盤に、さらに大きく発展する可能性を秘めた街だからです。その福岡市の魅力を、「生活の実の充実」、「成長への都市整備」、「次世代への歩み」の3つのカテゴリで紹介していきます。

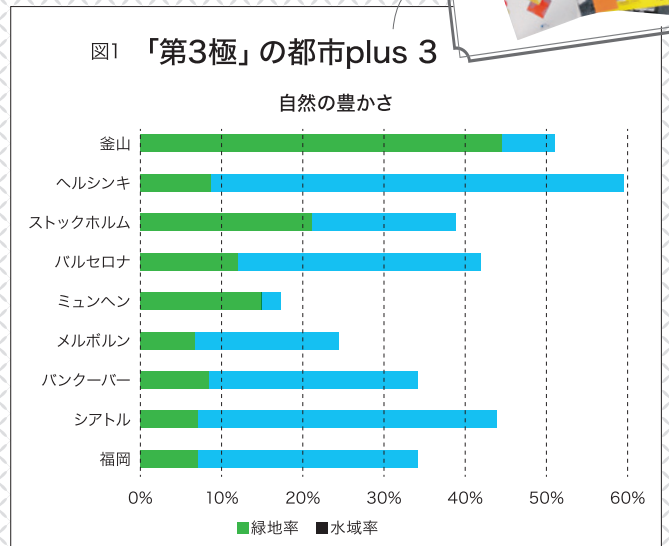
住みやすいコンパクトシティとして、世界から評価される福岡市

データブック Webで公開中!!

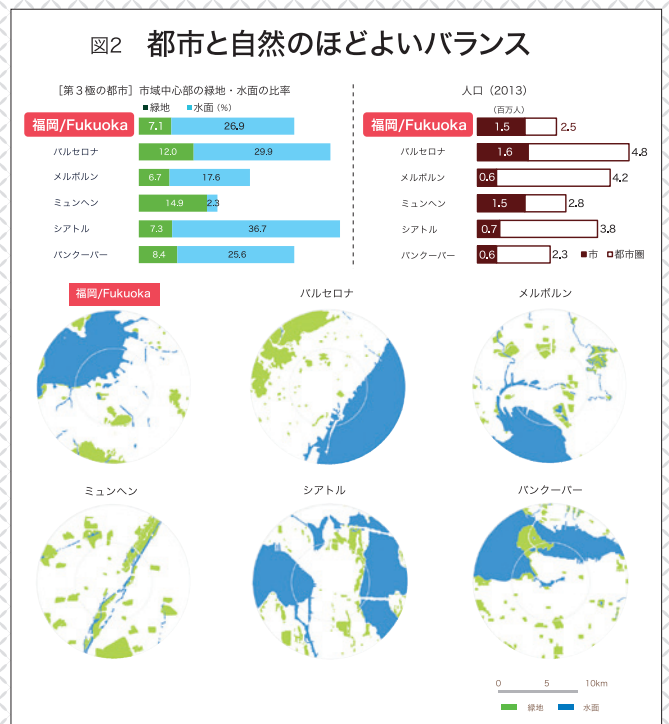
豊かな自然に恵まれ、住みやすく人が集まる都市、福岡市。空港が都心部に近い場所にあるため、天神・博多駅からも地下鉄で約5～10分で到着します。アジアの人と物流の中心地である博多港にもバスで約10分と、交通アクセスは抜群です。さらに、車を約20～30分ほど走らせれば、海や山でのレジャーを楽しめます。

こうした特徴を持つ福岡市は、自然と都市機能のバランスがとれたコンパクトシティとして、国内外から多くの人に評価されています(図1～2「第3極の都市plus 3、最新版 Fukuoka Growth」)。

国連総会で報告された「都市と国土計画に係る国際ガイドライン」(国連ハビタット作成)においても、世界26の優良事例が選出されたケーススタディの一つとして、福岡市がコンパクトシティとして評価され、日本の都市から唯一紹介されました。また、英国の情報誌『MONOCLE(モノクル)』による「世界で住みやすい都市(The Top 25 Cities 2016)」ランキングで7位に選ばれるなど高く評価されています。



出典:「第3極」の都市 plus3



出典:「第3極」の都市 plus3

◀「都市と国土計画に係る国際ガイドライン」(国連ハビタット作成)

INTERNATIONAL GUIDELINES ON URBAN AND TERRITORIAL PLANNING
都市と国土計画に係る国際ガイドライン

UN HABITAT FOR A BETTER URBAN FUTURE

福岡モデル
これから誕生する同規模都市のモデルに
福岡市の住み良いまちづくりが都市計画モデルとして国連加盟国に推奨されました!



▲土曜授業の様子 ▲小学校外国語活動の様子 ▲中央児童会館(あいくる)の預かりの様子 ▲働く人の介護サポートセンター

01 “生活の実の充実”

— あらゆる世代が絆をつむぎ、暮らしやすさを実感できる街 —



変化する育児環境への対応

住みやすい都市として評価される福岡市。その人口は増加し続け、2016年には153万人を突破。政令都市では、神戸市を抜いて、全国第5位になりました。

こうした人口増加に伴い、少子高齢化、共働きの家庭の増加など、福岡市の子どもや子育て家庭を取巻く環境も大きく変化しています。そのため、安心して子どもを育てることができる環境づくりが必要となってきました。

特に増加する保育ニーズに対しては、保育所の新設、小規模保育事業の許可などを積極的に進めています。また、医療面については、より安心して医療機関での受診ができるように、小学校就学前までは対象だった子ども医療費の通院助成を、2016年10月から小学6年生までに拡大しました。

教育に関しては、先進的な英語教育など、世界で活躍できる多様な人材の育成に取り組んでいます。次期学習指導要領実施に向けて、福岡市では小・中・高等学校を通じた英語教育全体の充実を図るため、「小中高連携推進モデル地区」（ベイエリア推進地区）を設置し、研究・実践を推進しています。

また、休み期間の見直しや土曜授業の実施など年間を通じた教育課程の見直しによって、新たに生み出す授業時数を、児童生徒一人ひとりの課題に応じた補充的な学習や発展的な学習に充て、児童生徒のさらなる学力向上を図るとともに、夢を育み、心を育てています。

その他、2016年4月に、乳幼児の一時預かりや子どもの遊びの場を提供する中央児童会館「あいくる」のリニューアルオープンをはじめ、2017年10月には「福岡市科学館」、2018年12月にはアイランドシティに「総合体育館」と、関連施設が続々と開館する予定です。



さまざまな世代をサポート

子どもだけでなく、福岡市に住む老若男女が心豊かに活躍できる街づくりも積極的に進めています。その一つが、東区千早にオープンした「なみきスクエア」です。市民センター、図書館、音楽・演劇練習場、諸証明発行窓口等の機能を備えるこの施設は、地域の人たちの文化・芸術活動の拠点となることでしょう。その他、総合図書館、東図書館の開館時間の拡大、マイナンバーカードを利用した（「利用者証明用電子証明書」を搭載された人に限る）住民票などの自動交付、よかトピア国際交流財団の移転・統合も実現しています。

人口増加とともに高齢化も進んでいるため、健康で元気に生活できる社会づくりの一環として、健康診断をきっかけとした若い世代からの健康づくりの推進に向けた40歳、50歳の「よかドック（福岡市国民健康保険の特定健診）」を無料化しました。働く家族介護者への支援としては、2016年7月、介護の相談対応や、情報提供の窓口となる「働く人の介護サポートセンター」を福岡市役所に設け、仕事と介護の両立へのサポートを開始しています。



▲なみきスクエア外観

◆なみきスクエア◆

ホームページ：www.namiki-sq.jp
（各施設に関する問い合わせ先は異なります）

◆働く人の介護サポートセンター◆

問合せ：保健福祉局高齢社会部
介護福祉課
電話：092-733-5452



▲なみきスクエアの演劇練習場



CHALLENGE CITY FUKUOKA

02 “成長への都市整備”

— 新しい成長の種が生まれ育つ街へ —

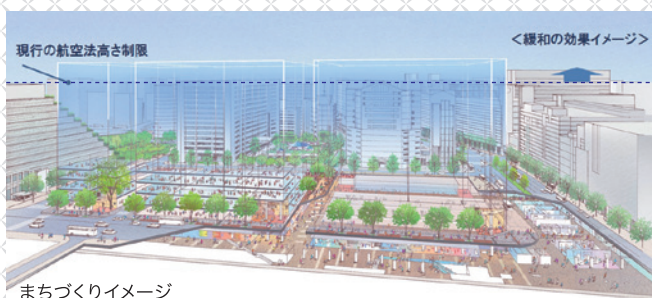
港、都心、公園などの整備で街にさらなる賑わいと活気を

福岡市は現在、人・交通・ビジネスのハブ機能を発揮する「アジアのリーダー都市」として躍進するために、近年、アジアからのクルーズ船が多く寄港する「ウォーターフロント」地区の開発にも力を入れており、MICEの開催誘致をはじめ、海辺を活かした賑わいを創出し、新たな拠点づくりを行っています。

この他、天神地区に新たな空間と雇用を創出するプロジェクト「天神ビッグバン」では、2024年までに、天神地区の約30棟の民間ビルの建て替えを誘導します。また、福岡市民の憩いの場である舞鶴公園と大濠公園の一体的な活用を図る「セントラルパーク構想」などの計画も進んでいます。



▲天神ビッグバン経済効果



先端技術を駆使し、環境に配慮した次世代型都市「スマートシティ」へ

次世代へ向け、快適で魅力あふれる都市になっていくためのまちづくりとして、福岡市が現在積極的に進めているのが、次世代型都市「スマートシティ」への取り組みです。

地下鉄利用の促進と市中心部の渋滞緩和を目的として、福岡市地下鉄のICカード「はやかけん」を活用した取り組みを行っています。地下鉄を利用した「はやかけん」をかざすことで、最寄駅の駐車場料金の優待を受けられる「はやかけんパーク&ライド」や、カーシェアリング(会員間での共同利用)の利用料金の優待を受けられる「はやかけんレール&カーシェア」を実施しています。その他、ライドシェア、都心を運行する電車の最寄駅にバスを接続するフィーダーバスなども推進しています。

2018年度下期には、西区の九州大学伊都キャンパス内で、自動運転バスのサービスが実用化する予定です。この取り組みでは、自動運転バスの安全性、利便性向上に向け、道路にセンサーを設置し、車や人を察知して安全を確保する「路車間協調技術」や、運賃や目的地への行き方などを答えてくれる「音声エージェント技術」、最適なルートで運行時間の短縮を図る「運行管制技術」など、人工知能を活用した技術開発と実用化に向けた実証実験を行います。

さらに、ICT(情報通信技術)の活用など最先端の街づくりを進める「福岡スマート・イースト」プロジェクトも始まっています。



福岡市の各施設も続々と整備中！さらに住みやすく快適な街へ

ウォーターフロントや天神周辺、「セントラルパーク構想」などの再整備だけでなく、福岡にある各施設の再整備も計画されています。さらに、大名小学校跡地の活用、春吉橋の架け替えに伴う賑わい空間づくりなどが進行中です。

福岡市美術館

施設の老朽化への対応と魅力向上のため、2016年9月から美術館を休館し、現在、リニューアルに向けた準備を進めています。2019年3月にリニューアルオープンする予定です。



須崎公園の再整備

市民会館を須崎公園内に建て替えることに伴い、市民会館敷地と須崎公園を新公園として再整備する予定。都心の新しい公園は天神と博多、中央両ふ頭の間の人の流れをつなぐ回遊軸となっていくことでしょう。

アイランドシティはばたき公園整備

博多湾東部で、アイランドシティ周辺の海や海岸を含む約550haのエリアを「エコパークゾーン」と位置づけ、自然環境の保全・創造、地域の生活環境向上に向けて様々な施策を展開しています。公園の名前は、公募により「アイランドシティはばたき公園」と決定しました。



福岡市科学館

九州大学六本松キャンパス跡地に2017年10月「福岡市科学館」がオープン予定。子どもの学力向上と福岡の将来を担う人材育成を目指し、科学の原理や最新の科学技術を楽しく学べる体験型の科学館を整備しています。



中央消防署の移転

中央区における都市環境の変化や都市基盤の充実、今後の人口動向等を踏まえ、災害即応体制の強化と都心部における救急需要への対応などを図るため、立地条件などの諸課題を抱える中央消防署本署の移転整備を2018年に予定しています。



高宮南緑地などの都市公園の整備

高宮南特別緑地保全地区として樹林地を保全しつつ、近代の炭鉱業隆盛期に「筑豊御三家」と言われた貝島家の邸宅の保存・活用を図るため、官民連携事業による整備・管理運営を行います。



CHALLENGE CITY FUKUOKA

03 “次世代への歩み”

— 未来を見据え、力強く歩む街へ —

現在の評価に甘んじることなく、次なる魅力発掘へ向かう福岡市

「福岡市グローバル創業・雇用創出特区」により、スタートアップ事業を積極的に推進している福岡市。アメリカのシアトルやシリコンバレー、フィンランドなど、創業が盛んな地域とのネットワークも現在構築しているところです。情報関連産業が集積する強みを活かして、世界的に開発が進んでいるIoT*の推進をはじめ、その他、さらに活力を高めるための都市づくりに精力的に取り組んでいます。

*IoT: Internet of Thingsの略。「モノのインターネット」と呼ばれ、あらゆるモノがインターネットにつながる。

●グローバルスタートアップ推進事業

<スタートアップ・IoT関連>

海外のスタートアップ都市とのネットワークを構築し、グローバル展開を見据えた創業が可能となる環境づくりを推進しています。

2016年6月には福岡市のスタートアップ拠点である「スタートアップカフェ」とサンフランシスコの「D.Haus San Francisco (ディーハウスサンフランシスコ)」との連携を、同年11月には台湾の「Start-up Hub (青創基地)」との連携を実現し、スタートアップカフェで現地でのビジネス展開に向けた情報収集や起業相談等が可能となりました。

さらに、世界最大級のスタートアップイベント「SLUSH (スラッシュ)」が開催されるヘルシンキ市や、ICT先進国であるエストニアの政府等機関と、スタートアップ支援に関する覚書を締結することで、創業支援施設の優先利用やビジネスマッチングの機会提供など、現地進出時の各種支援を受けることも可能となりました。

また、市内スタートアップの成長や、海外でのビジネスの実現、海外のエコシステムとのネットワーク形成を図ることを目的に、市内の起業家やその候補者など約100人をサンフランシスコ・シリコンバレーに派遣する研修プログラム「Global Challenge! STARTUP TEAM FUKUOKA」も実施しています。



STARTUP FUKUOKA CITY

- グローバルスタートアップ推進事業について
 問合せ：総務企画局企画調整部
 電話：092-711-4706 F A X：092-733-5582
 メール：f-tokku@city.fukuoka.lg.jp
- スタートアップカフェについて
 問合せ：経済観光文化局創業・大学連携課
 電話：092-711-4455 F A X：092-733-5901

●中小企業・スタートアップ企業マッチング事業

新しいビジネスの創出やイノベーションの推進を目的として、地場企業とスタートアップ企業をつなぐビジネスマッチングイベント「フクオカ・スタートアップ・セレクション」が、2015年から開催されています。2016年11月、ICTやIoTなどのテクノロジーの活用により災害対応など課題解決を図る「防災×テック(BOUSAI×TECH)」をテーマに開催されました。スタートアップ企業とベンチャーキャピタルとのマッチングや、国内外スタートアップ企業によるショートプレゼンなどのプログラムも新たに加わり、地場企業の新たな事業展開、発展や、スタートアップ企業の成長、グローバル展開の促進につながっています。



2016年11月
「防災×テック(BOUSAI×TECH)」

問合せ：経済観光文化局
 創業・立地推進部 創業・大学連携課
 電話：092-711-4637 F A X：092-733-5901
 メール：sogyodaigaku.EPB@city.fukuoka.lg.jp

●IoT拠点形成事業

IoTに取り組む企業のビジネスを更に発展させるため、産学官民によるIoT分野でのネットワーク形成を図る取組を実施しています。センサーデータを活用した地域の課題解決の事例や情報の共有、IoT分野における新製品・サービスの創出を図るため「福岡市IoTコンソーシアム」の立ち上げ、2016年8月25日の会員募集以来、市内外から140社を超える企業及び個人が会員に参加。今後、防災、安心・安全、ヘルスケア、観光、サービス等の分野でワーキンググループを設置し、地場企業等が取り組む社会実証実験を支援していく予定です。

また、国家戦略特区における電波法の特例を活かした新製品・サービスの開発及び実証実験、販路開拓等を促しています。市内企業により開発された製品・サービスについては2017年3月に成果発表会の開催。



問合せ：経済観光文化局
 創業・立地推進部 新産業振興課
 電話：092-711-4333 F A X：092-733-5901
 メール：shinsangyo.EPB@city.fukuoka.lg.jp

▲福岡IoTコンソーシアムのポスター

●外国人創業者に対する支援 ・スタートアップビザ

福岡市が国家戦略特区に認定されたことにより、外国人創業者に必要な在留資格「経営・管理」の申請時の要件が緩和され、6カ月間の在留資格が認められます。2015年12月から始まり、28人の外国人が申請しました(2016年12月末時点)。

・スタートアップ賃料補助

福岡市で外国人の創業を促進するため、不動産事業者と連携し、事務所や住居の情報提供を行うとともに、有望なビジネスプランを持つ外国人創業者に対しては、事務所や住居の賃料の一部を補助しています。

問合せ：経済観光文化局 創業・立地推進部 創業・大学連携課
電話：092-711-4455 F A X：092-733-5901
メール：sogyodaigaku.EPB@city.fukuoka.lg.jp

<各施設の整備>

●動植物園の魅力・賑わいアップ事業

「21世紀・人と動植物の共存をめざして」～いきものたちのよるこぶ公園～を基本理念に、豊かな樹林地を活かした都市型動植物園へと再生を図ります。

動物園では、20年をかけたリニューアル事業を行っており、動物たちが本来持っている力を発揮できる広々とした空間づくりや動物たちをより近くで観察するための展示方法などの整備を行い、新たな魅力づくりをしています。

さらに、「無料シャトルバス」の運行によるアクセス環境改善、植物園内での「ガーデントレイン」の運行や新しい植物の導入など、新たな魅力の創造と賑わいが生まれるでしょう。



▲ガーデントレイン

●ベジフルスタジアム(青果市場)ブランド化推進事業

福岡市には、青果物を取り扱う市場が3か所(旧青果・西部・東部市場)ありました。旧青果市場への一極集中化による東西市場の機能低下、旧青果市場の老朽化やスペース不足を解消するために、3つの市場を統合して、東区のア일랜드シティに「ベジフルスタジアム」がオープンしました。

ベジフルスタジアムが持つコールドチェーンや安全・安心の取り組みを強みとし、「アジアを視野に入れた九州の青果物流拠点・ふくおか」の市場ブランドを確立しています。

問合せ：農林水産局青果市場ブランド化推進
電話：092-683-5331 F A X：092-683-5328
メール：brand.AFFB@city.fukuoka.la.jp



▲2016年2月にオープンしたベジフルスタジアム



▲ベジフルスタジアム外観

●福岡農山漁村地域スタートアップ応援

地域の環境づくりや事業者のビジネス創出を促し、農山漁村地域の活性化を図るため、全国での農山漁村地域でのビジネスの成功事例を学ぶセミナー・交流会を開催しています。

これまで、「カフェ・レストラン」、「宿泊施設」、「産直市」をテーマに開催しました。最終回となる第4回目のセミナーは、「6次産業化」をテーマに2017年3月に開催しました。



問合せ：総務企画局企画調整部(「農山漁村地域活性化」)
電話：092-711-4863 F A X：092-733-5582
メール：kikaku.GAPB@city.fukuoka.lg.jp

<国際大会の誘致>

●第99回ライオンズクラブ国際大会開催

2016年6月、世界最大規模の社会奉仕団体「ライオンズクラブ」の国際大会が開催されました。119の国・地域から約37,000人(うち外国人約12,000人)が参加し、福岡市における過去最大の国際コンベンションになりました。

また、明治通りでは「インターナショナルパレード」も開催され、約12,000人の参加者が団体ごとに民族衣装等の統一したユニフォームに身を包み、国際色豊かに街を彩りました。



●大規模国際スポーツ大会の招致・開催

1851年から開催されている「レイ・ヴィトン・アメリカスカップ・ワールドシリーズ」がアジア初の福岡博多湾で、2016年11月に開催されました。

2019年開催予定の「ラグビーワールドカップ」、2021年開催予定の「世界水泳選手権」の開催準備や、キャンプ招致などをはじめ、新たな大会の招致にも取り組んでいます。



▲FINA世界水泳選手権の開催地が決まった時の様子



▲「レイ・ヴィトン・アメリカスカップ・ワールドシリーズ」の開催地が福岡に決まった時の様子

創造性を生み出す 都市環境と経済活動

クリエイティブ都市・福岡の可能性と「人」が生み出す価値

国が、コンテンツ、ファッション、デザイン等の「クリエイティブ産業」を戦略産業として位置づけるなど、人の創造性が生み出す価値の重要性が増す中で、クリエイティブな人が集まる都市の環境とは。「オール福岡」の、クリエイティブな価値創出の可能性を探ります。

(公財)福岡アジア都市研究所 情報戦略室 研究主査 畠山 尚久

“世界一のクリエイティブ都市・東京”から福岡市へ

世界が選ぶ「最もクリエイティブな都市」は東京です*1。日本のクリエイティブな分野が、世界から注目される中で、福岡市も、クリエイティブ産業、人材の集積を図っており、既に、首都圏から福岡市へ移住する人もみられます。さらに集積を促すために、福岡市の魅力や強みを知ってもらうことが重要です。

図1 東京・山手線内エリア



出典：JR東日本
*面積計算：Google Maps - 地図蔵によるエリア指定

職住接近の生活環境から生まれる余裕

福岡市のクリエイティブ都市としての可能性を、“世界一の東京”との比較からみてみます。

東京の中心、JR山手線に囲まれたエリア(以下「山手線内エリア」)は、面積が約63km²で、福岡市の都市高速道路・環状線に囲まれたエリア(以下「都市高環状内エリア」)の約67km²と、ほぼ同じ規模です(図1)。

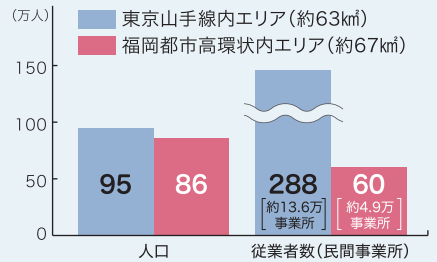
福岡都市高速環状線内エリア



出典：福岡市道路整備アクションプラン2016

人口は、東京23区では1千万人近いものの、山手線内エリアに限ると、約95万人と、福岡都市高環状内エリアの約86万人と大きな差はありません(図2)。山手線内エリアは、業務エリアが多く、地価の高さなどから、多くの人は、エリア外に居住していることがわかります。

図2 山手線内エリアと都市高環状内エリア人口(推計)と従業者数比較



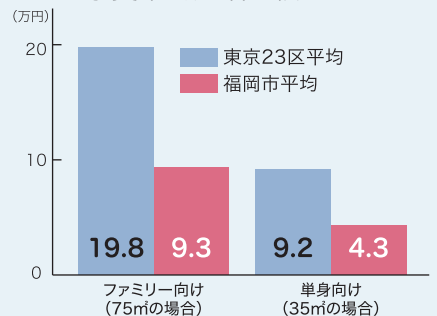
資料：平成27年国勢調査・平成24年経済センサス活動調査(総務省)

*エリア人口は総務省統計GISの範囲指定による(小地域=町丁単位統計のため一部エリア外含む)人口小地域数値は平成22年国政調査が最新値であるため、両エリアを含む。行政区の平成22年から平成27年人口伸び率をエリア値に積算して推計

一方、エリア内で働く従業者数は、山手線内エリアの約288万人に対し、都市高環状内エリアが約60万人と大きな差があります(図2)。それぞれのエリアにかかる行政区の従業者数上位2区の比率は、港区と千代田区の合計58.8%に対し、都市高環状内エリアは、博多区、中央区の合計が76.3%で、山手線内エリアは、広い範囲に事業所が分散しているのに対し、福岡市は、よりコンパクトな範囲に集中していることがわかります(表1)。

福岡市は、多くの人が都心に近いエリアに住み、コンパクトな都心

図3 福岡市と東京23区の家賃平均月額比較



資料：平成26年小売物価統計調査年報(総務省)
*民間借家月あたり坪単価をm²に換算したものの

表1 両エリアにかかる従業者数上位2区の占める割合

| 山手線内エリア従業者数・上位2区の占める割合 | | | 都市高環状内エリア従業者数・上位2区の占める割合 | | |
|------------------------|-----------|--------|--------------------------|----------|--------|
| 上位2区 | 従業者数(民営) | 構成比(%) | 上位2区 | 従業者数(民営) | 構成比(%) |
| (エリア内) 港区・千代田区計 | 1,693,900 | 58.8 | (エリア内) 博多区・中央区計 | 455,003 | 76.3 |
| 山手線内エリア計 | 2,882,135 | 100.0 | 都市高環状内エリア計 | 596,119 | 100.0 |

資料：平成26年経済センサス基礎調査(総務省)

部で働く職住近接の特性が表れています。

日々の通勤や移動の距離が短いと、人が創造的な活動に費やす時間的余裕に大きな差が生まれます。

生活面でも、福岡市は、食料の消費者物価指数が20大都市中最も低く^{*ii}、住宅家賃は東京23区の半額以下の水準で(図3)、こうした経済的な負担の軽さも、良い影響をもたらすと考えられます。

次代の価値を創造するまち

福岡市には、今から約50年前に、日本初の芸術工学 (design)の国立単科大学である九州芸術工科大学(現九州大学芸術工学部)が開設されるなど、クリエイティブな人材や産業が根付く土壌があり、既に一定の集積も進んでいます。特に、ゲーム産

業は、10年間で従業者が3倍以上に増加しています(図4)。今後は、AI^{*iii}が進化し、AR^{*iv}などの可能性が広がる中で、最先端の技術を、生活関連分野や他の産業で応用するなど、世界に先駆けた取組みが、福岡市から生まれる可能性もあります。

また、平成27年度には、福岡市のスタートアップカフェ^{*v}利用者で起業した人が前年度の約3倍となるなど(図5)、次代を見据えた人が活動するまちとしての位置付けも強まっています。

全ての人々が創造性を発揮するクリエイティブ都市

クリエイティブ産業の一つで、福岡市に集積がみられる情報通信業は、事業所あたりの付加価値額が大きく(表2)、この水準で、仮に50社増え

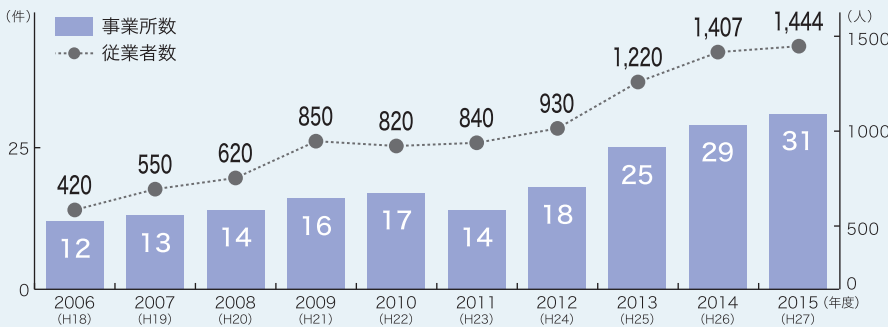
た場合、市内総生産の押上効果は、約157億円となります(表3)。

一方、ICT^{*vi}の進化やAIの活用が進めば、人が本来の創造的な活動に費やす時間が増え、福岡市の主要産業であるサービス業をはじめ、全ての産業でイノベーション(革新)が起こり、生産性の向上や新たな価値創出が図られることも期待されます。仮に、他の全ての産業で、付加価値額が平均3%上昇すれば、市内総生産額の押上効果は、約1,741億円と、より大きな効果が得られることとなります(表3)。

クリエイティブ産業が、フロンティアとして新たな価値や技術を切り開き、全ての産業で、従事する人が創造性を発揮する、つまりこれが、真のクリエイティブ都市の姿といえます。

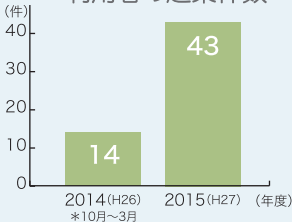
技術が進化する未来にこそ、「人」が持つ能力や感性を最大限に発揮する環境が必要で、創造的な活動を行う時間的余裕があり、住みやすさが世界で7番目と評価される^{*vii}福岡市は、全ての人々が活躍できるクリエイティブ都市として、東京とはまた違う可能性を秘めています。

図4 福岡市のゲーム産業の事業所数・従業者数



資料：福岡市経済観光文化局 *従業者数は概数

図5 スタートアップカフェ利用者の起業件数



資料：福岡市経済観光文化局

表2 産業活動別市内総生産からみた事業所あたり付加価値額

| | A.産業活動別市内総生産額 | B.事業所数 | C=A/B.事業所あたり付加価値額・概数* |
|------------|---------------|--------|-----------------------|
| 情報通信業 | 604,078 | 1,918 | 315.0 |
| その他産業 | 5,803,756 | 73,069 | 79.4 |
| 合計(産業部門のみ) | 6,407,834 | 73,069 | 101.8 |

資料：平成25年度福岡市経済計算(名目)・平成26年経済センサス基礎調査
*平成25年度総生産額を平成26年経済センサス事業所数で割った暫定値

表3 市内総生産押上効果比較

| | D.仮条件産業活動別市内総生産額 | E=D-A 押上額 |
|------------|------------------|-----------|
| 情報通信業 | C×50社増 | 619,826 |
| その他産業 | C×1.03×B(生産性向上) | 5,977,869 |
| 合計(産業部門のみ) | | 6,597,694 |

*仮条件達成時の簡易シミュレーション

*i 米Adobe Systemsの「クリエイティビティ(創造性)に関する調査」(2016)。米国、英国、ドイツ、フランス、日本の18歳以上の成人5000人を対象にオンライン調査。東京30%、ニューヨーク21%、パリ15%などの順。
*ii 平成26年小売物価統計調査(総務省)
*iii Artificial Intelligence の略・人工知能
*iv Augmented Reality の略・拡張現実。コンピューターを利用して、現実の風景に情報を重ね合わせて表示する技術。
*v 福岡市が起業や新たな事業を始めようとする人を支援し、新しい価値を生み出すプラットフォームになることを目指して平成26年10月に開設した。
*vi 情報通信技術
*vii 英モノクル誌による世界の住みやすい都市調査 Monocle Quality of Life Survey 2016で過去最高の7位に選出。

「老いるアジア」に福岡市はインパクトを与えられるか？

(公財)福岡アジア都市研究所 特別研究員 小川 全夫
(九州大学名誉教授)

1. 福岡市の高齢化とアジアの高齢化

福岡市は、日本では若者が多くて元気な大都市である。いわゆる高齢社会からは免れている特異な都市と思われている。しかし統計的事実は、福岡市がアジアの高齢化と同じ歩みの中にあることを示している。15歳から64歳の人口100人で14歳以下と65歳以上の人口何人を支えているかを示す従属人口指数でみると、福岡市は日本全体より5年位遅れているが、アジアの諸国・諸地域に比べると15年早く変化していることが分かる。この曲線が右肩下がりであることは、人口の年齢構成が働く世代にとっては扶養負担が減っていくので、経済発展には都合のよい人口ボーナスがあることを示している。しかし福岡市を含めた日本は1990年代にそのボーナスを使い果たして、今や人口の年齢構造が経済発展には不都合な、人口オーナスといわれる右肩上がりの従属人口曲線を描く時代に入っている。そしてその日本を追いかけるよう

に、アジアの各国各地域が2010年を境にして、人口ボーナス段階から人口オーナス段階に変転している。今後福岡市の少子高齢化に向けた取り組みは、アジアから注目されることは必至である。



図2 第10回記念アジア太平洋アクティブ・エイジング会議

2. 福岡市における先駆的・国際的な高齢化への取り組み

私は、10年前に福岡市からアジア太平洋地域の各国・各地域に対して、「アクティブ・エイジング」という政策枠組みの重要性を提起し、研究者・政策立案者・地域指導者のコンソーシアムを立ち上げた。当初は、福岡市とハワイ州と釜山市と上海市の有識者で始めた交流であるが、今では12か国以上のネットワークに広がり、アジア太平洋アクティブ・エイジング会議(略称ACAP)も10回を数え、福岡市・北九州市だけでなく、ホノルル市、釜山市、慶尚南道南海郡、上海市、バリ島、

シンガポール、クアラルンプールなどでも開催してきた。2016年3月に福岡市で開催した10回目の記念大会には150名の外国からの参加者があり、国内参加者を含めると400人になる国際会議となっている。

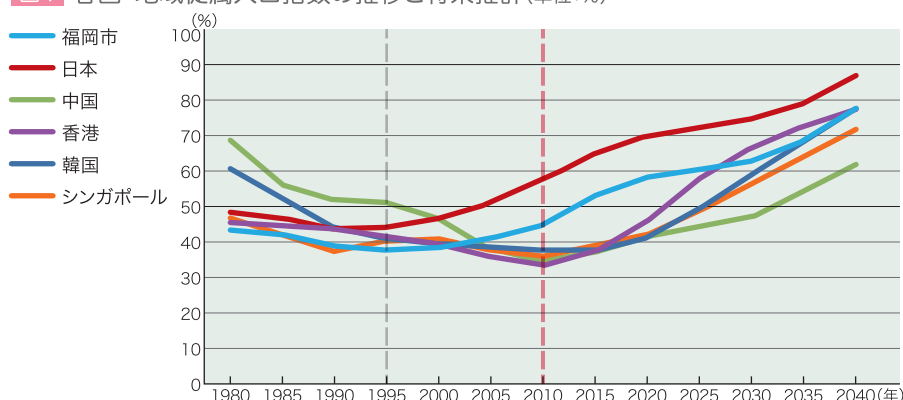
こういう国際会議を持つ上で、アジアの政治情勢は難しい。しかし、政府が東京で開催する会議とは違って、福岡市という地方で開催すると、国ではなく地域として、台湾や香港が中国本土の都市が同じように参加してくれることが嬉しい。福岡市の利点はこのようなところにある。

また福岡市を訪れた外国からの参加者は、ほとんどみな福岡市が好きになっている。繰り返し福岡市の会議には出たいし、街を訪れたいといわれる。

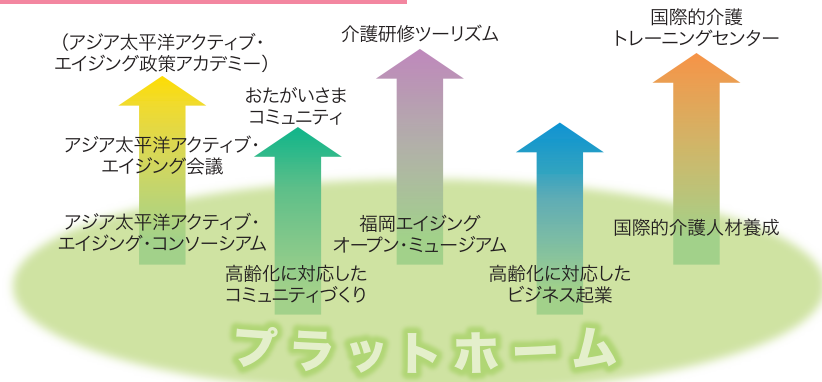
3. 老いるアジアへ取り組みを伝達する使命を果たすために

アジアからの期待に応えるために、かつて福岡市を高齢化に取り組むオープン・ミュージアムとして案内する通訳ボランティアを養成し、海

図1 各国・地域従属人口指数の推移と将来推計(単位:%)



高齢化するアジア事業のプラットフォーム



外からの視察団を受け入れたことがある。韓国で日本と同じような介護保険制度を導入する時には、数多くの視察者や実習希望者を受け入れることができた。また亡くなられた大韓老人会（韓国の老人クラブ連合会）の会長は開通した韓国の新幹線を使って全国の会員を毎日福岡に送り込む計画を立てられたが、これは竹島問題でとん挫してしまった。

最近、高齢化しても耐久性を持つ地域社会を、「おたがいさまコミュニティ」としてつくるための取り組みを科学技術振興機構社会技術研究開発センターの支援を受けて実施したが、今はこの取り組みを福岡市社会福祉協議会に託している。シンガポールからは、2016年秋にも視察が来ている。地域包括ケアシステムのモデル都市である千葉県柏市でも「おたがいさまコミュニ

ティ」形成手法は、今後応用されることになっている。福岡市での取り組みは国際的に注目されるようになってきているといえよう。

また、インドネシアの地域在住高齢者の保健福祉増進のために日本の高齢者保健福祉プログラムの応用可能性を探る調査研究と若手人材交流事業を始めている。

4. 国際介護トレーニングセンター構想

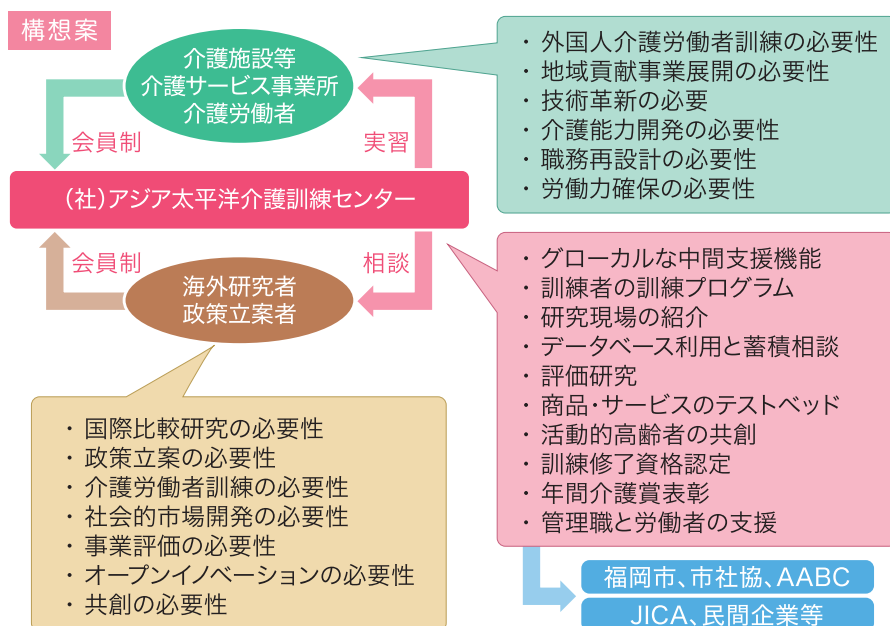
なかなか日本政府は、高齢者介護の労働力不足という事実を認めた政策を展開しようとしな。潜在的な国内の人材確保でなんとか切り抜けられると思込んでいる。しかし世界は高齢者介護労働力確保競争の時代に入っている。例えば、

フィリピンのケアギバースクールといわれる職業訓練学校卒業者は世界各地からひっぱりだこである。

しかし日本は海外からの介護人材については、あいかわらず「労働力不足対策ではない」として、EPAによる候補者確保や技能実習生や留学生という枠組みで対応しようとしている。だが、日本の介護はきわめてガラパゴス的状况に置かれており、多様な国際的な介護の人流を円滑化することができずにいる。

中国では一人っ子政策に従った親たちが高齢期に達しようとしている。子供に頼ることができない老親たちは、政府に老後の保障を要求している。中国は、この問題に取り組むためには、日本の介護人材の訓練や介護保険制度を学ばなければならないとして、政府機関や民間機関を日本に送り込む計画が盛り上がっていたが、東日本大地震と尖閣列島問題で一気に冷え込んでしまった。ようやく最近また中国の民間機関から再度日本の介護事業関係事業者に働きかける動きが出てきたことを注視すべきである。

そこで、日本の介護を世界のKAIGOとして普及するためにも、職場で外国人に介護の指導を行うためにも、また地域包括ケアシステムの中で在宅あるいは通所でサービスを担う人材を育成するためにも、国際的な介護トレーニングセンターを設置して、訓練プログラム開発、訓練者の訓練、新介護技術の共創的研究開発、実習や労働の査察、認定証の発行などの機能を整備することを福岡市に提案したい。現在、同じような構想が九州経済連合会においても検討されており、海外からの問い合わせも増えている。今後はこれをアジアの高齡化対応のプラットフォームとして、福岡市から老いるアジアにインパクトを与えることができるようにすることが課題になるだろう。



*都市政策研究 第18号に研究報告を掲載しています。

都市・都市化に関する世界の潮流(ハビタット)

(公財)福岡アジア都市研究所 特別研究員 野田 順康
(西南学院大学 法学部 教授)

1. はじめに

2016年10月(17~20日)に第三回国連人間居住会議(ハビタットⅢ)がエクアドルの首都、キトで開催される。同会議は1976年から20年毎に開催され、世界の都市政策の方向性を打ち出して来ているので、今回も新しい考え方や政策が打ち出されるのではないかと期待している。本稿では、これまでの経緯やハビタットⅢの準備状況について概要を説明する。

2. 歴史的経緯(図参照)

やはり事の発端は1972年にローマクラブが執筆した「成長の限界

(The limit to Growth)になるだろう。この本では、想定される人口爆発、工業開発等が続けば、やがては地球の対応能力(Carrying capacity)に限界が生じ、成長が望めなくなるばかりか、破滅的な現象が生じる可能性を警鐘している。いくつかの幾何級数的に増加する要素を指摘しているが、そのうちの一つに都市化と都市爆発も含まれている。

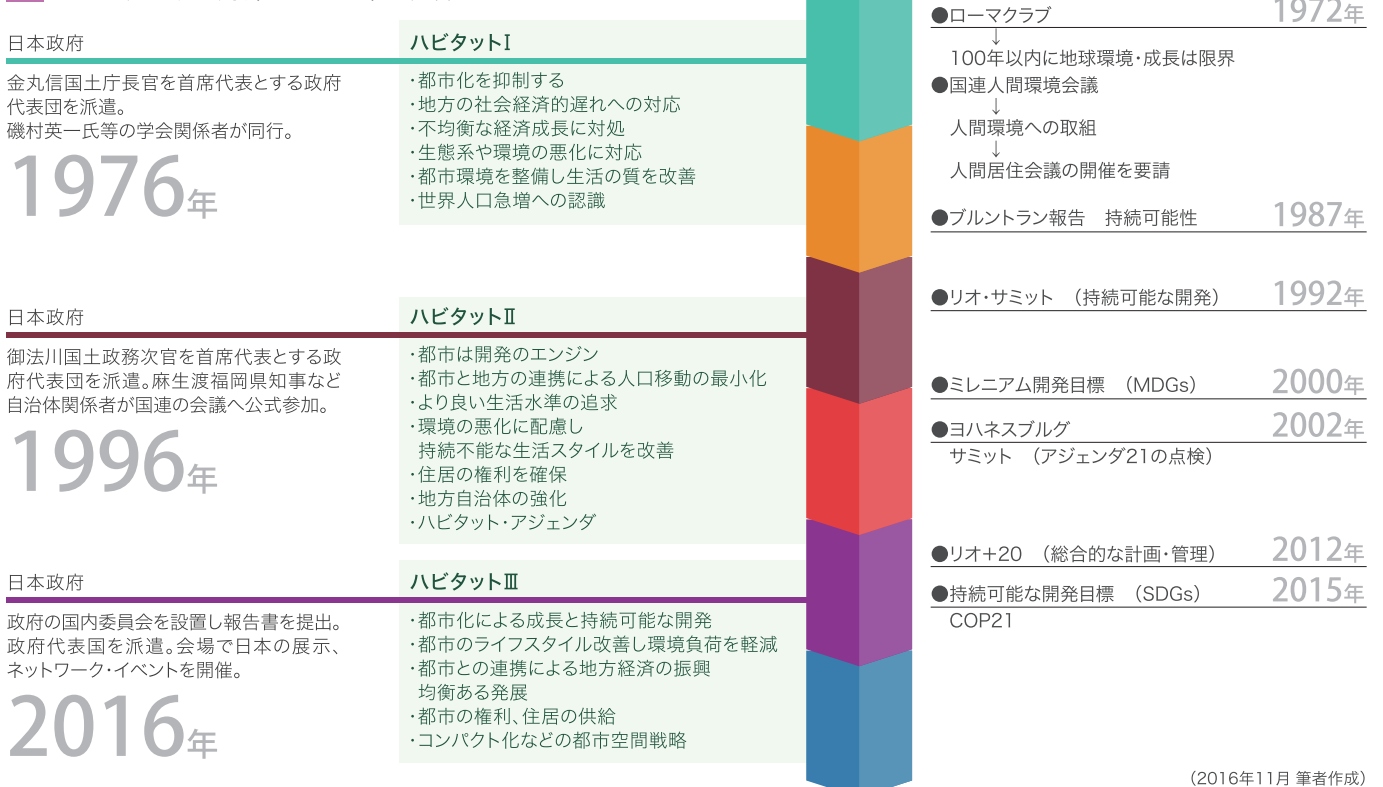
このような報告を踏まえて、同年に国連環境会議がストックホルムで開催され、地球環境の保全に関する議論が始まった。同会議では環境保全に関する様々な議論が展開されたが、都市化・都市爆発については、その緊急性を指摘し、別途国

際会議を開催し集中的に議論することを提言した。

この提言を受けて1976年にバンクーバーで開催されたのが第一回国連人間居住会議(ハビタットI)である。同会議では都市化の負の側面が強調され、都市化を抑制することに議論が集中していた。人口分散を目指した政策や地方の社会経済開発が随分と議論されている。日本で「国土の均衡ある発展」が議論されていたのと符合している。

しかしながら、1996年に開催された第二回国連人間居住会議(ハビタットII)では都市化の考え方に大きなパラダイムシフトが生じている。即ち、都市化を肯定的に捉えて都市

図 国連人間居住会議(ハビタット)の経緯



(2016年11月 筆者作成)

を成長のエンジンと位置付けたのである。都市化を抑制することが難しいとの認識もあったわけだが、むしろ都市化を促進するような議論が展開されており、大転換との印象である。勿論、1987年にはブルントラン報告において初めて持続可能な成長と言う概念（サステナビリティ、Sustainability）が提起されているので、環境保全に配慮した考え方は随所に見られるようになった。

さて、それから20年たった2016年、ハビタットⅢが開催されている。今度はどのようなパラダイムシフトが語られるのか注目したいところである。

3. ハビタットⅢに向けた準備

ハビタットⅢの背景としては、引き続き急速な都市化がある。ハビタットⅠが開かれた1976年の都市化率（全人口に対する都市域の人口比率）は37.9%であったが、ハビタットⅡの1996年には45.1%、ハビタットⅢの今年（2016年）は54.5%となっており、人口の半分以上が都市に住む状況になっている。さらに、この都市域の面積は全陸地の2%に過ぎないにもかかわらず、経済活動、エネルギー消費、温室効果ガスの放出、廃棄物の生成は70%を占めており、都市の地球環境に対する影響力が巨大化している。このような状況下で取るべき都市政策の方途が大きな論点である。

下に示すように、ハビタットⅢの準備は2014年の9月から始まっており、これまでに3回の大規模な準備会合が開催された。また、ハビタットⅢで採択するニュー・アーバン・アジェンダ（新しい都市政策の論点）の原案を作成するために、ハビタットⅢ



貞刈副市長がプレゼンテーションを行う様子

事務局が10の政策委員会（都市の権利、社会・文化的フレーム、国の都市政策、ガバナンスと制度の開発、地方自治体の財政、空間戦略と土地市場、経済開発、環境と都市防災、サービスと技術、住宅政策）を立ち上げ、個別に方向性を議論してきた。筆者も2015年8月に「国の都市政策」委員会委員（日本代表）に任命され、2016年4月、議論に参加し、ニュー・アーバン・アジェンダの要素を作成してきた。特に、都市連携やネットワークの強化、環境の持続性を支える都市政策等に議論が集中した。

第三回準備会合では様々な意見が交錯し、ハビタットⅢに提出する原案を合意するには至らなかったが、その後もニューヨークでの調整が続き、9月10日に原案の合意をみた。都市化は経済的、社会的、環境的観点から持続可能な開発を推進する手段との考え方が強調されている。

4. 都市と国土計画に係る国際ガイドライン

ニュー・アーバン・アジェンダの礎となっているのが「都市と国土計画に係る国際ガイドライン」であり、筆者もメンバーであった国連特別専門家会合が2013年10月（パリ会

合）から2014年11月（福岡会合）まで検討して策定した。コンパクトで社会的包摂性に富み、統合的で接続性に優れた、持続可能な都市と国土の建設を目指すことを提言している。本ガイドラインは2015年4月の国連ハビタット管理理事会で承認され、同年9月には国連総会に報告された。

ガイドラインには26のモデル都市を掲載しており、福岡市も「コンパクトで暮らしやすい街」として取り上げられている。このことから世界の都市政策関係者が福岡市に高い関心を持ち始めている。第三回準備会合においても、サイドイベント（Urban Speakers Corner）に招待され、貞刈厚仁副市長が福岡の魅力についてプレゼンテーションを行い、多くの聴衆に関心を持たれた。ハビタットⅢの議論においても福岡市のまちづくりが参照されることになるであろう。

5. おわりに

ニュー・アーバン・アジェンダはまだ案の段階であるので、キトにおいてまだまだ活発な議論が展開される。例えば、都市化と持続可能な開発の関係については、さらに議論を深める必要もある。筆者も10月15日からキト入りするので、都市化・都市政策に関してどのようなパラダイムシフトが合意されるのか注目したいと考えている。

（2016年10月執筆）

*都市政策研究 第18号に研究報告を掲載しています。

表 ハビタットⅢ準備会合

| 回数 | 期間 | 場所 |
|-------|----------------|-------------|
| 第一回会合 | 2014年9月17日～18日 | ニューヨーク、アメリカ |
| 第二回会合 | 2015年4月14日～16日 | ナイロビ、ケニア |
| 第三回会合 | 2016年7月25日～27日 | スラバヤ、インドネシア |

期待される スタートアップの海外展開

(公財)福岡アジア都市研究所 特別研究員 岡田 允

1. 福岡の成長を担う スタートアップと 海外ビジネス展開

福岡地区の人口は微増しており、東京圏と並び福岡は比較的「恵まれた」都市と見られている。それには、平成26年(2014年)5月に「グローバル創業・雇用創出特区」に指定され、「グローバル創業都市・福岡ビジョン」に基づく各種の取組みが遂行されたことによって、全国トップといえる新規創業比率を続けていることが一要素となっている。

福岡市は、アジア主要都市に最も近い地方中枢都市であり、歴史的にも東アジア地域との交流・交易の窓口都市であった。今に至っても、それは、福岡市の基盤的な都市機能となっている。

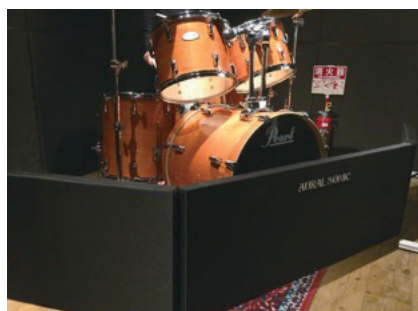
ただし、九州全体としては人口減少が著しいことから、今後は福岡市も消費需要が伸び悩むことが予測され、新たな市場へのビジネス展開が求められてくるであろう。「グローバル創業・雇用創出特区」政策によるスタートアップスの誕生が、海外ビジネスへの展開へとつながっていくことが重要であり、その先例として、海外ビジネスに挑戦している2つのスタートアップを紹介したい。

2. オーラル・ソニック社 世界最高品質の「調音パネル」 でシリコンバレー進出

①世界最高品質の「調音パネル」の 実力、シリコンバレーで認められる

古澤秀和氏が開発し、2014年に日米中で特許を取得した「調音パネル」は、音を吸収し、壁に当たった一次反

射音を直接音と干渉しない様に微弱的な反射音に変換し、かつ、遅延させることで、実際の部屋より広い空間と同じ音場にすることができる。既存技術では40~50cmの壁工事が必要な調音効果と遮音効果を、わずか2cmの薄さで実現した画期的なパネルである。「吸音」や「遮音」を謳った製品も少なくないが、「苦情」も少なくなく、利用者には必ずしも満足されていないのが現状であり、オーラル・ソニック社の「調音パネル」の優秀さは群を抜いている。



その需要は、放送局や劇場、音楽スタジオ、医療機関、外資系オフィスなどにも広がりはじめたものの、2011年3月の東日本大震災によって東京での活動が難しくなるかも知れないと考え、1カ月後にラスベガスの展示会に出展し手応えを覚え、その半年後に米国のエンターテインメント産業の集中するロサンゼルス(トーレンス)に進出(子会社設立)した。利用者には、坂本龍一、小室等、仲間将太などのミュージシャン、また、米国の超有名なミュージシャン、ピーター・アスキンを等がおり(ピーター・アスキンは感謝の動画をfacebookにアップしている)、ディズニーのアニメ制作スタジオ、アカデミー賞授賞式オーケストラビットに採用されるなど成功を収める。2014年にはシリコンバレーに拠点を移し、オバマ大統領も出席したことのある全米一の「ピッチコンテスト」で日本人企業

として初めて優勝し、その卓越性がさらに広く認められることとなった。

②古澤秀和氏とは?



創業者・代表取締役の古澤秀和氏は、大川家具メーカーの後継ぎとして生まれたものの、福岡市の

大濠高校の卒業生である。3年間のアルバイト、非正規労働を経験した後、東京の大学を卒業した。その後後継の家具工場が倒産し、困惑している時、医師をはじめ医療関係の友人・知人が、事業支援のため研究会を組織してくれ、研究を重ねることで寺社仏閣建築技術を応用した免震構造の木造住宅「ゆりかごの家」を完成させることができた。家具、内装制作技術の基礎の上に、当初から「子ども達が健やかに伸び伸びと育てゆける医学的・科学的に正しい環境を提供したい」という強い思いがあり実現したものである。2002年に「ハウス119」社を起業し、国土交通省の認証も得たものの、建築費が高額になるため建築実績は数棟しか上がらなかったという。

その後、京都のある大学の脳科学研究者の論文を読んだことがきっかけとなり、研究および試作を重ね、2008年に、手作りで「調音パネル」のプロトタイプを完成させ、柳川市に量産工場、福岡市に本社事務所を構え、翌年から全国販売を開始した。福岡に対する強い愛着と旺盛な研究心、そしてシリコンバレーへの情熱を秘めた40歳代の苦勞人(?)起業家である。

③新しい展開へ

2016年4月の熊本地震の避難所での発達障害の子供などに使っても

らおうとオーラル・ソニック社が「調音パネル」ボックスを提供したところ、「リラックスできた」「安眠ができた」という多くの感謝の声が寄せられた。さらに、その報道を聞いた発達障害(聴覚過敏症)の子供を持つ母親が「調音パネル」ボックスを使ったところ、子どもが毎日熟睡するようになったという添付ファイル(写真)付きの感謝のメールが送信されてくる、さらには、認知症と診断されていた老夫人に「調音パネル」室で会話したところ、的確に受け答えされ、実は加齢による難聴症であることが判明するなど、オーラル・ソニック社には種々の効果事例が集まるようになっている。

天井の低い日本家屋の室内では、TV、エアコン、話し声、物擦れ音など複数の音が、壁や天井だけではなく家具も含め、幾重にも反射し我々はほとんど意識することはないが、「騒音」状態であるのかも知れない。このような環境は欧米に比べ日本の子供の聴覚の発達に影響を及ぼしており、聴覚過敏症(発達障害)などの子供にとっては苦痛を与えているのかもしれない。

日本文理大学工学部の福島学教授の実証実験データでは、「調音パネル」を使った場合、アルファ波(α 脳波)の出現頻度が高くなり、リラックスできたり、集中力が高まるといった効果が実証されるなど、保健・医療分野での需要拡大の可能性が高まっており、古澤氏も今後の新しい事業展開の柱と考えている様子である。

3. ドレミング(株) HRシステム基盤のスマート 決済サービスで、英国大使 館に乞われ、世界の金融セ ンター・ロンドンに進出

①ドレミング(株)とは？

ドレミング(株)は、給与計算システムの開発に20年の実績がある企業のメンバーが、「働く人の収入を増やし、貧困と格差を減らす」ことに貢献することをミッションとしてスピノフし、2015年6月に福岡市に設立した株式会社である。

②提供するスマート決済システムとは？

ドレミング(株)が開発中のスマート決済システムPaymingは、HRシステム上で計算された、働いた分の給与を上限として、携帯電話・スマートフォンによる本人の認証で買い物ができ、代金を企業の口座から引き落とす仕組みになっている。「お金を借りるのではなく、企業が承認することで、いつでも自分の働いた分の給与にアクセスできる仕組み」であり、個人の銀行口座を経由するのではなく、もちろん、クレジットカードのように事前審査も要らないため、誰もが利用可能なものである(なお、Paymingは開発名称である。)

また、Paymingでは、金融機関・銀行やクレジットカード発行会社、さらには、すべての決済系サービスとも連携できるため、VISAやマスターカードのような決済スキームの提供も可能となっており、HRシステムをフリーミアムモデルで提供し、それぞれのステークホルダーに対して利益分配を行うモデルの採用も予定している。

③先行する欧米での事業

2015年10月には、JETROの支援を受けて展示会に出展、アメリカでもニーズがあり、技術レベルについても高い評価を得て、世界のIT企業が集中する米国サンフランシスコに現地法人を設立した。現在は、知財の管理やマーケティング業務に着手している。

2016年2月には、スマート決済システムPaymingが、銀行サービスが使えない難民対策としての可能性に着目した英国大使館の方が福岡の当事務所に来られ、英国への誘致を勧められたのを契機に、世界の金融センター・ロンドンに進出した。ロンドンのLevel39というインキュベーション施設に現地法人を設け、イノベートファイナンス(銀行、IT企業などによるフィンテック関係のコンソーシアム)へ日本企業として初めて入会した。現在3人が勤務している。

国内は、東京に5人、福岡本社に15人(うち8名がプロパー)がおり、合計20人が主に開発業務に携わっている。

④今後の事業展開は？

現在はHRシステムのテスト段階で、2017年中にはアジアにも進出す



ドレミング(株) 桑原 広亮 氏

る計画であり、既に、いくつか誘致の話ももらっている。

当面の主なターゲットは、アフリカなど途上国になるであろう。その場合、日系企業などで導入してもらい事例・実績を作っていく。また、NTTデータのオープンビジネスコンテストで優勝したという実績があり、NTTの途上国進出に乗っていくということも考えている。

アフリカ等では給与支払いだけではなく送金(手数料が高い)に使われることが多いと考えられるので、ブロックチェーンシステムを取り入れることも必要になると思われる。実際、そのための話し合いも持っている。

国内でもサービスしていく予定であるが、国内では労働基準法第24条の規定(「賃金は通貨で、直接労働者に、その全額を支払わなければならない」)等があり、Paymingのような直接の決済手法は採用できないので、自分の銀行口座にいつでも働いた分の給与を振込めるサービスを提供する予定である。

4. 両者にみられる特徴

私は「これまでの日本経済を担ってきたのは70歳代であり、今後は40歳代以降の日本人が担うであろう。大いに期待できる。」と指摘した著名外国人の言葉を思い浮かべる。福岡市の今後も両者のような40歳代がいかに活躍するかにかかっているであろう。

古澤氏も桑原氏も40歳代であり、海外をビジネスの対象としている。古澤氏は「子ども達が健やかに伸び伸びと育てゆける環境を提供したい」、桑原氏は「働く人の収入を増やし、貧困と格差を減らす」という強い「使命感」を持っているという共通点がある。つまり、「志」が、私たちがあまり気に留めない反射音の調音ということに着目させ、HR(人事/給与管理システム)技術からスマート決済システムを構想することにつながったのであろう。なお、ドレミング(株)の桑原氏もファウンダーも共に九州出身であり、福岡市の誘致もあって福岡で創業となったものである。

2016年 ATA授賞式 in 銀川

(公財)福岡アジア都市研究所 主任研究員 唐 寅

2010年に福岡で創設されたアジア都市景観賞(ATA:Asian Townscape Awards)は今年で7回目を迎え、2016年10月末中国寧夏回族自治区の銀川市でその授賞式典が盛大に行われた。

1. 「塞上の江南」銀川

銀川は、賀蘭山と黄河に挟まれる砂漠に囲まれている都市だが、黄河の用水路が多いため、古来より農業生産も盛んであり、「塞上(辺境)の江南」と称されている。

井上靖の小説『敦煌』にもしばしば登場した銀川は、紀元11世紀にタングート(党項)族の首長李元昊が建国した西夏王国の都であった。後にチンギス・カンが率いる蒙古軍

に征服され、西夏王国は王陵群と漢字を模して作られた西夏文字だけが後世に残っている。

近代以降、イスラームを信仰する回族がこの一帯で勢力を拡大し、現在は中国唯一の回族自治区の省都となっている。市内各地ではモスクが増え続けているとともに、アラビア風の建築物も随所に見かけるようになったが、食文化、こと酒文化においては蒙古族のしきたりはまだ色濃く残されている。

また、ご当地は漢方薬や中国料理に珍重されるクコの実の産地としてかねてから有名だが、ここ数年、銀川市当局はフランスワインの代表的産地であるボルドー市と提携し、糖度の高い地元産ブドウを使ったワイン生産にも注力している。

2. 住みよい都市への ステップアップ

飛行機で銀川に近づくと、眼下に山積みされた黒い石炭と銀色に輝く石油コンビナートのタンクがよく見かけられる。1960年代の「三線建設」時代に沿海部から移設してきた重工業施設は今も稼働しているだろう。

しかし、銀川は新興工業都市ではあるものの、西北内陸の遅れた地域としてのイメージが強い。銀川近郊の「西北影城」(映画村)にある撮影セットはそのまま古い銀川の姿でもある。また、市中心部に位置する南門広場は、北京の天安門広場とよく似ているから「小天安門」と揶揄され、銀川は保守的な都市だという印象をいっそう外部に与えてしまったのである。

21世紀以降、「改革・開放」のうねりが内陸部に及ぶにつれ、いわゆる「西部大開発」の号令のもと、銀川市も都市開発のスピードを上げ、旧市街地に隣接する農村地区で大規模なインフラ整備を行い、10年足らずにしてもう一つの真新しい都市を作り上げ、中国政府から住みよい都市に授けられる「中国人居環境奨」を獲得している。

銀川市関係者によると、政府機構の移設をはじめ、市民生活に欠かせない文化教育や医療施設の整備、大型商業施設の誘致などが今も引き続き行われており、国連ハビタットが毎年世界の住みよい都市を表彰する「UN-HABITAT名誉賞」の獲得を当面の都市づくりの目標



回族の装い



街中の看板は統一、
緑色はハラール



スーパーにある
ハラールコーナー



観光土産となった
西夏文字



ゴビ石を集めて立てたワイナリー



ゴビ砂漠で開墾されたブドウ畑



西夏王陵



「小天安門広場」



民族帽子を模った
グランドシアター



市のランドマーク：
中国アラブロード



2014年ATA受賞都市銀川



大型モール



集合住宅 価格は北京の10分の1



市政府広場の夜景

に据えているようだ。そのため、2014年アジア都市景観賞の受賞は銀川市にとって大きな励みであり、重要なステップであったと関係者が口をそろえる。

3. 「伝えよう、都市の力」

2014年のATA授賞式出席のため福岡を来訪した銀川市当局は、いち早く授賞式開催立候補の意思を示していた。今年5月にATA主催4団体が彼らの開催申請を正式に回答したのを受け、銀川市政府が人財両面で準備に取りかかり、ATAのための画期的な授賞式典を開催したのである。

「伝えよう、都市の力」をテーマにした第1回銀川シティフェスティバルは10月29日から2日間にわたって開催され、期間中にいくつもの関連イベントが行われていた。

5,000㎡を超えた銀川国際コンベンションセンターの展示会場では、式典の開幕式があり、国内外各受賞都市のPRブース、ATA回顧

展、中国西北民俗展とともに、地元特産ワインの試飲もあり、2日間で1万人超の来場者でにぎわっていた。

銀川国際交流センターという5つ星ホテルでは、1日目の午後「2016年アジア都市景観フォーラム」が開催され、各受賞都市の関係者や学界代表が300人近くの聴衆を前に、それぞれの都市で展開されている景観形成による都市づくりの現状を報告し、その内容は地元マスコミに大きく取り上げられた。続いて若手デザイナー育成計画によるデザインコンクール優勝者の発表もあって、海外在住の中国人若手デザイナーが賞状と50万円相当(1位)の賞金を審査委員長から受け取った。

2日目の午後は賑やかな表彰式であった。参加者は用意されたレッドカーペットの上を闊歩してホールに入り、銀川市当局4大系列のトップ(共産党書記長、人民代表大会主任、政治協商会議主席、市長)が列席する中、ATA主催者が壇上で各受賞都市の名を読み上げるたびに、会場から歓喜の声が湧き上がっ

ていた。賞状と楯を手にした受賞都市の代表が誇らしげに抱負を語り、皆さんで記念写真を撮りあう様子が実況中継され、各受賞都市の成功事例も後日銀川テレビでシリーズ報道されていた。

2014年、銀川市がATAの受賞を祝して市政府職員全員に1か月給料分相当のボーナスを支給した。今回は、シティフェスティバルの期間を延長して、2週間にわたってこの式典に加盟した商業施設による割引セールを行い、住みよい都市づくりの成果をダイレクトに市民に還元する試みを敢行した。

2日目午前の市内視察で訪れた銀川市都市計画展示館には、多元文化の共生を前提にした住みよい都市づくりの未来像が描かれている。かつて民族興亡の交差点であったこの大陸の奥地で、人々はよりよい生活を求めて、より幸せな生活環境を築いていくための営みを続けている。来年のATA授賞式典も楽しみである。

*授賞式の様子は、URCホームページから動画で発信しています。



長〜いレッドカーペット



銀川国際交流センター前



銀川コンベンションセンター前



景観展示ブース



地元産ワインの展示、試飲OK



表彰式



表彰式参加者



ホテルロビーにあった割引セール広告

Information

URC活動の報告

TOPIC

1

「第3極」の都市plus3

2014年度、福岡と類似性を有している、首都・経済首都でなくメガ・シティでもない5つの都市(シアトル・バンクーバー・メルボルン・ミュンヘン・バルセロナ)のグローバル競争力を福岡と比較し、その研究成果を『「第3極」の都市』として公表しました。

それから約2年、国境を超えたグローバリゼーションの波は、ますます高くなっており、日本でアジアへの最前線に位置する福岡への影響はとくに顕著になってきました。博多港への外航クルーズ船の急増は、その影響の一端であるといえます。

今年度は、情報戦略室の監修のもと、新しい視点も加えながら、『「第3極」の都市 plus 3』として、HPにてシリーズで掲載しています。

3月末には報告書の発刊を予定しています。(情報戦略室長 久保隆行)



TOPIC

2

都市セミナー

福岡の未来の都市戦略を提言する「都市セミナー」は、毎年、当研究所主催で開催しています。平成28年度は、第1回「グローバルに成長し続ける都市『福岡』～経済、文化、観光などの観点から福岡のあるべき都市像を探る～」、第2回「21世紀のまちづくりの展望 ～文化的側面からも都市政策を知る～」、第3回「福岡のグローバル・ネットワーク～国境を越えた人・企業・モノ・資本・文化の流動と結合から福岡を展望する～」をテーマに開催しました。多くの方が参加し、ディスカッションや質疑応答などの活発な意見交換がありました。平成29年度に向けた都市セミナーも予定しています。詳細につきましては、ホームページにて掲載し、参加者募集を行いますので、ぜひご参加ください。



第2回都市セミナー
橋田会長による開会あいさつ

TOPIC

3

研究紀要

当研究所の研究員の研究論文や寄稿論文等を掲載し、毎年発行しています。今回、第18号となる研究紀要を3月に発行しました。過去の報告書は当研究所のホームページに掲載しています。また、都市政策資料室(福岡市役所 北別館6階)で閲覧することができますので、お立ち寄りください。



研究紀要表紙

ICTを活用した外国人材の 活躍支援と地方創生に向けた取組み -CIP(Creative Interchange Platform)

TOPIC

TOPIC



CIPは、留学生及び在住外国人のためにICTを活用し、支援している団体です。留学生が企業に採用されたあとも、定着に向けてフォローし、「ひと＝留学生」と「しごと＝地場企業」が好循環でできる先進的なまちづくりを目指して活動しています。共同代表者である柳研究主査の報告論文が、地方シンクタンク協議会が主催する「論文アワード2016～「テーマ：地方創生」」において優秀賞を受賞しました。

第4回

ナレッジコミュニティ

テーマ 福博の街「花を飾っておもてなし」

URCナレッジコミュニティは、福岡市のまちづくりや文化、コミュニティ、国際など幅広いテーマについて、講師の話をもとに参加者が相互に語り合う「知のコミュニティ」の場づくりを目指しています。2017年3月21日(火)に「福博の街 花を飾っておもてなし ～花の美しい都市をめざして～」をテーマに福岡市役所、多目的スペースで開催しました。

次年度も様々なテーマで開催しますので、ご期待下さい。

国際視察・研修

(Visiting & Training Guide Menu)

福岡市と共同で福岡市国際視察・研修受入事業を運営しています。様々な都市問題を抱えている海外の諸都市に福岡市の住み良いまちづくりを広く紹介するため、5つの分野について「国際視察・研修プログラム」を用意しています。これまでに、29ヵ国・地域から524名(2016年4月～2017年1月末)を受け入れました。(詳しくは、<http://urc.or.jp/?p=7264>)



香港からの視察団

国際視察・
研修メニュー

1. 都市デザインに配慮した都市づくり
2. 高齢者が住みやすい都市づくり
3. 水資源を大切にする都市づくり
4. 環境に優しいごみ処理技術を活かした都市づくり
5. 安全・安心の都市づくり

平成28年度 市民研究受入事業

当研究所では、市民の方々に、自主的な立場での研究を通して、まちづくりへの認識を深め、また、交流の輪を広げることで、まちづくりのリーダーとなっていただくことを目的として受入事業を実施しています。今年度は、「さらなるグローバル化時代に向けての福岡市のまちづくり」を共通テーマとして、研究活動中です。2017年3月12日、アクロス福岡6階606会議室にて最終報告会を開催しました。



平成28年度の市民研究員の皆さん

●平成28年度市民研究員と研究内容

| お名前 | テーマ・問題意識 |
|-----------|--|
| 岡田 憲二郎さん | 多文化共生社会の構築に向けた福岡市民の意識向上を目指す政策に関する研究 ～「多文化共生アドバイザー」制度導入の提案～ |
| 古賀 尚子さん | 福岡市における多言語センターの構築とネットワークの確立に関する研究 |
| サーズ 恵美子さん | グローバルシティにおける都市機能としてのコミュニティとメディア |
| 郷 艶さん | 福岡市のブランド作りについて ～東洋一幸福な都市へ～ |
| 古澤 秀和さん | 世界中の起業家を集め、世界の創業特区をめざす政策に関する研究 |
| 矢野 裕樹さん | 女性起業家と女性フリーランスの協働を促進するプラットフォームに関する研究 |

■研究所情報

公益財団法人福岡アジア都市研究所は、各界各層の協力と連携のもとに、都市政策を研究し、アジアの視点も取り入れながら、将来の都市戦略を提言する研究機関です。また、様々なネットワークを構築し、情報の交流・発信を行いながら、各セクターを結びつけるコーディネーターの役割も担っています。「福岡・アジアのことなら都市研に」と誰からも期待される研究所であることを、私たちは願うのであります。みなさま方の温かいご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

使命ー公益財団法人 福岡アジア都市研究所は…

「市民とともに福岡を究め、地域に役立つ研究所を目指します!!」

「アジアの都市と連携し、グローバルな視点でローカルを考える研究所を目指します!!」

■賛助会員制度

年会費（法人一口：10,000円、個人一口：5,000円、学生一口：2,000円）をお支払いいただくと、さまざまな特典が受けられる賛助会員制度があります。詳しくは、(公財)福岡アジア都市研究所までお訊ねください。

TEL:092-733-5686 FAX:092-733-5680 E-mail: info@urc.or.jp

●特典

1. 研究所主催のセミナー等の開催情報をお知らせします。
2. 都市情報誌 f U + を毎号1部無料でお届けします。
3. 研究紀要を毎号1部無料でお届けします。
4. URC資料室だよりを毎号、eメールまたは郵送によりお届けします。

■都市政策資料室

(公財)福岡アジア都市研究所の都市政策資料室では、アジア地域を含む都市政策関係図書、各種調査・研究の成果報告書、行政資料などを幅広く収集・公開しております。どなたでもご利用いただけます。

皆様のご利用をお待ちしております。

開室：月～金10:00～17:00

(土曜日・日曜日・祝日・年末年始・毎月最終業務日・資料整理期間(不定期)は休み)

蔵書検索：研究所のホームページから資料室の図書・資料が検索できます。

・都市政策資料室に新たな交流スペースが完成!

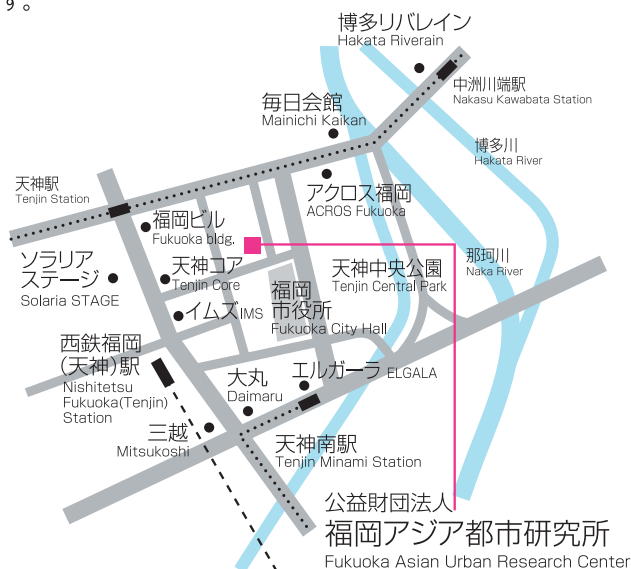
都市政策資料室は、研究所内の交流スペース拡大のために、アジア各国コーナーを移動し、蔵書のコンパクト化を行ってまいりましたが、このほど、新しい交流スペースが完成しました。交流スペースは、会議がない時は利用者の皆様の閲覧スペースやワーキングスペースとして開放しています。また、撤去しましたアジア各国の蔵書は、厳選の上、資料室北側の集密書架等で開架しております。置けなくなったアジア各国の資料は、廃棄するだけではなく、できるだけ公共図書館や大学図書館等、使っていただける機関にお譲りし、最後は利用者の皆様でご希望の方に差し上げます。お時間がありましたら、是非お立ち寄りください。



URC入口



交流スペース



福岡アジア都市研究所 情報誌 fu+(エフ・ユー プラス)第17号
2017年3月31日発行

■発行所

公益財団法人福岡アジア都市研究所
〒810-0001 福岡市中央区天神1-10-1
福岡市役所北別館6F
TEL:092-733-5686 FAX:092-733-5680
E-mail: info@urc.or.jp

■編集責任者：鹿毛 尚美

■編集：中島 賢一、足立 麻理子

■ライター：野田 紗池子

■デザイン・印刷：株式会社ドミックスコーポレーション



公益財団法人
福岡アジア都市研究所



URL: <http://www.urc.or.jp>